

第3回
メディアに関する全国世論調査
(2010年)

公益財団法人 新聞通信調査会

目 次

各メディアの印象・信頼度

- 1．各メディアの印象は？ 1
 役に立つ「新聞」、信頼の「NHKテレビ」、面白い「民放テレビ」
- 2．各メディアの情報の信頼度は？ 3
 **1位「NHKテレビ」73.5点、2位「新聞」72.0点、3位「民放テレビ」65.3点。
 新聞の情報信頼度、1.1ポイント回復。**
- 3．信頼している新聞の記事は？ 4
 「政治・経済・社会に関する報道」、信頼度8割以上。
- 4．信頼しているテレビ（NHK）の報道は？ 6
 「ニュース解説」、全メディアで一番の信頼度。
- 5．信頼しているテレビ（民放）の報道は？ 8
 「ニュース解説」、「スポーツ・芸能」の信頼度は比較的高め。
- 6．信頼しているインターネット情報は？ 10
 「政治」「経済」「社会」など主要な報道分野、信頼度5割台にとどまる。
- 7．各組織、団体の信頼感とは？ 12
 **「検察」を信頼できない、信頼できるを上回る。
 政治への不信感も昨年度に引き続き強い。**

新聞への意見

- 8．新聞についてどう思う？ 14
 情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価。
- 9．新聞の政治に対する態度についてどう思う？ 16
 **「不正を追及」「客観的な視点」に4割強が肯定、昨年度より評価が高まる。
 「政治家についてすべて報道している」には厳しい評価。**
- 10．新聞の政治的立場についてどう思う？ 18
 欧米のように政治色を出すことには否定的なのは昨年度と変わらず。
- 11．新聞の記事の満足度は？ 19
 ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い。
- 12．新聞全般の満足度は？ 21
 満足している人は63%、不満な人は6%。高年齢層ほど満足度が高い。

生活の中の新聞

- 13．新聞を読んでいる人は？ 22
 **夕刊を「読んでいる」31%、夕刊離れがさらに進む。
 昨年度34%、一昨年度42%**
- 14．新聞を読む時間は？ 24
 平均時間は27分。若い世代ほど短い。
- 15．新聞を読む場所は？ 25
 **新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心。
 20代、30代は「職場・学校」も2割。**

16. 新聞を読む理由は？	26
新聞を読むことは生活の一部。	
1位「習慣になっている」、2位「世間の動きがわかる」	
17. よく読む新聞記事は？	27
身近な記事が人気。1位「ラ・テ欄」、2位「地元記事」、3位「社会記事」	
18. 新聞を読まない理由は？	28
1位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(64%) 2位「新聞を取っていない」(46%)が6ポイント増。	
19. 大きな事件・事故のニュースの入手先は？	29
テレビ、新聞が中心で昨年度から変動なし。	
20. 戸別配達をどう思う？	30
日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」80%。ただし、微減傾向。	
21. 夕刊の発行をどう思う？	31
「続けてほしい」人は21%で、一昨年度から7ポイント減。	
22. 月ぎめ新聞の購読状況は？	32
85%が購読。20代では購読69%で、昨年度より6ポイント減。	
23. 新聞の購読料をどう思う？	33
「高い」とする人は54%。若い世代で負担感が大きい。	
24. 通信社の役割を知っている？	34
特に若い世代で「役割を知っている人」は少ない。	
25. 見たり聞いたことがある通信社は？	35
1位「共同通信社」(69%)、2位「ロイター通信」(68%)で 順位変わらず。	
 新聞のこれからとインターネット	
26. インターネットのニュースをどの程度見る？	36
「インターネットニュースを毎日見る」20代の半数以上。 30代以下では朝刊の閲読率を上回る。	
27. よく見るインターネットニュースの記事は？	37
1位「スポーツ・芸能」(73%)、2位「社会記事」(51%)	
28. インターネットニュースを見るサイトは？	38
ポータルサイトが85%、新聞社の公式サイトは25%。	
29. 将来の新聞の役割についてどう思う？	39
「新聞の役割が少なくなってくる」が6ポイント増。	
30. 電子新聞の周知と魅力は？	40
「利用してみたい」21%、「知らない」は昨年度より26ポイント減。 魅力は1位「過去記事の検索」、2位「重要なニュースが随時更新」	

(注) 本文の見出しに(＊)があるのは昨年度調査と同一質問であることを示している。

各メディアの印象・信頼度

1. 各メディアの印象は？（*）

- 役に立つ「新聞」、信頼の「NHKテレビ」、面白い「民放テレビ」 -

- ・各メディアの印象を聞いたところ、「情報源として欠かせない」メディアとして、56%の人が新聞をあげ、昨年度に引き続きトップとなった。また、「情報が役に立つ」「情報の量が多い」でも1位となり、新聞はメディアとしての有用性が高く評価されていることが分かった。
- ・「情報が信頼できる」「社会的影響力がある」ではNHKテレビが、「情報が面白い・楽しい」「手軽に見聞きできる」「情報がわかりやすい」では民放テレビが1位となった。
- ・「情報源として欠かせない」「社会的影響力がある」メディアとしてインターネットをあげる人の割合が、昨年より増加した。（5.1ポイント増、4.6ポイント増）
- ・年代別に見ると、「情報源として欠かせない」は、新聞では年代が上がるほど、インターネットでは年代が下がるほどあげる人の割合が高くなり、30代以下ではインターネットが1位であったが、40代以上で新聞が逆転して1位になっている。「情報が信頼できる」は、新聞とNHKテレビでは年代が上がるほど多くあげられる傾向にあるが、民放テレビでは年代差は小さく、インターネットは年代が上がるにつれ減少してくる。「情報が面白い、楽しい」は、民放テレビがいずれの年代でも6割～7割（62.7%～74.3%）を占め全年代共通で高くなっている。一方、インターネットは20代の65.0%から70代以上の3.3%まで年代差がきわめて大きくなっている。新聞とNHKテレビは年代が上がるにつれ「情報が面白い、楽しい」とする人の割合が増加する傾向がみられる。

表1-1 各メディアの印象

（複数回答、n=3,459）

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
情報源として欠かせない	新聞 56.0%(57.8%)	民放テレビ 50.0%(50.4%)	NHKテレビ 47.6%(47.7%)	インターネット 34.1%(29.0%)	ラジオ 12.9%(12.1%)	雑誌 7.9%(7.6%)
情報が役に立つ	新聞 54.7%(54.8%)	民放テレビ 47.0%(46.1%)	NHKテレビ 45.4%(44.3%)	インターネット 32.7%(28.9%)	雑誌 12.6%(12.0%)	ラジオ 12.1%(11.7%)
情報の量が多い	新聞 44.6%(48.0%)	民放テレビ 39.8%(41.7%)	インターネット 35.2%(27.2%)	NHKテレビ 28.5%(29.3%)	雑誌 7.5%(7.3%)	ラジオ 5.4%(4.8%)
情報が信頼できる	NHKテレビ 69.0%(71.1%)	新聞 63.8%(62.1%)	民放テレビ 36.5%(30.9%)	インターネット 16.3%(13.0%)	ラジオ 15.6%(13.7%)	雑誌 3.2%(2.5%)
社会的影響力がある	NHKテレビ 61.5%(60.5%)	民放テレビ 57.3%(60.0%)	新聞 56.7%(59.4%)	インターネット 30.8%(26.2%)	ラジオ 10.1%(11.5%)	雑誌 8.4%(10.0%)
情報が面白い・楽しい	民放テレビ 69.7%(70.1%)	インターネット 31.9%(25.5%)	雑誌 23.8%(22.4%)	新聞 20.3%(20.2%)	NHKテレビ 19.1%(17.9%)	ラジオ 12.7%(12.4%)
手軽に見聞きできる	民放テレビ 59.5%(62.1%)	新聞 49.6%(51.5%)	インターネット 40.5%(35.6%)	NHKテレビ 39.6%(40.0%)	ラジオ 17.6%(17.3%)	雑誌 11.9%(11.5%)
情報がわかりやすい	民放テレビ 56.2%(55.6%)	NHKテレビ 48.7%(48.2%)	新聞 42.8%(44.1%)	インターネット 22.1%(19.1%)	雑誌 6.4%(6.0%)	ラジオ 10.2%(9.5%)

注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 1 - 1 「情報源として欠かせない」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,459)

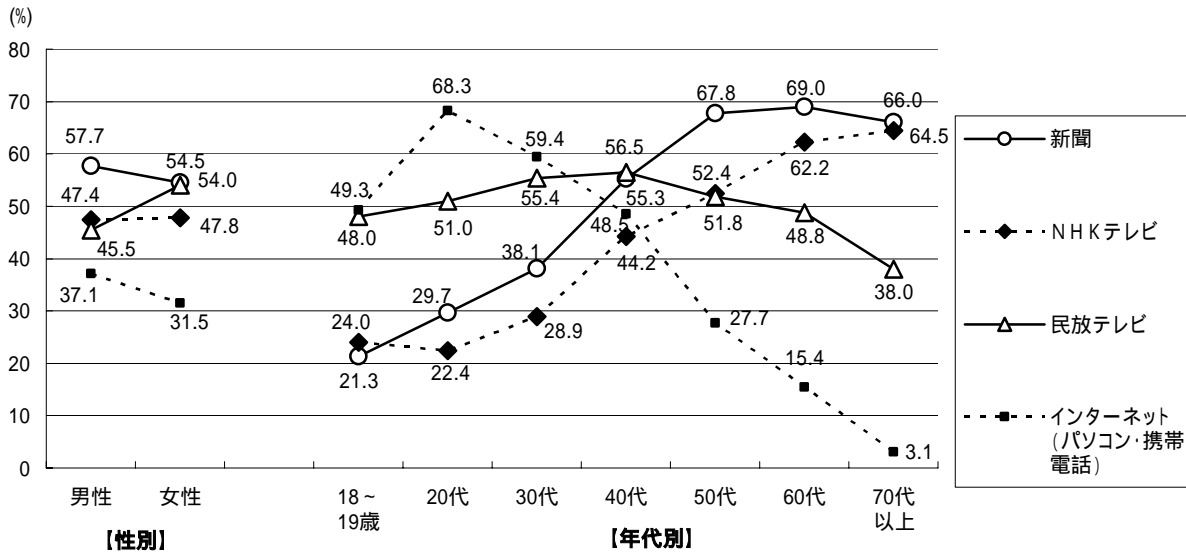


図 1 - 2 「情報が信頼できる」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,459)

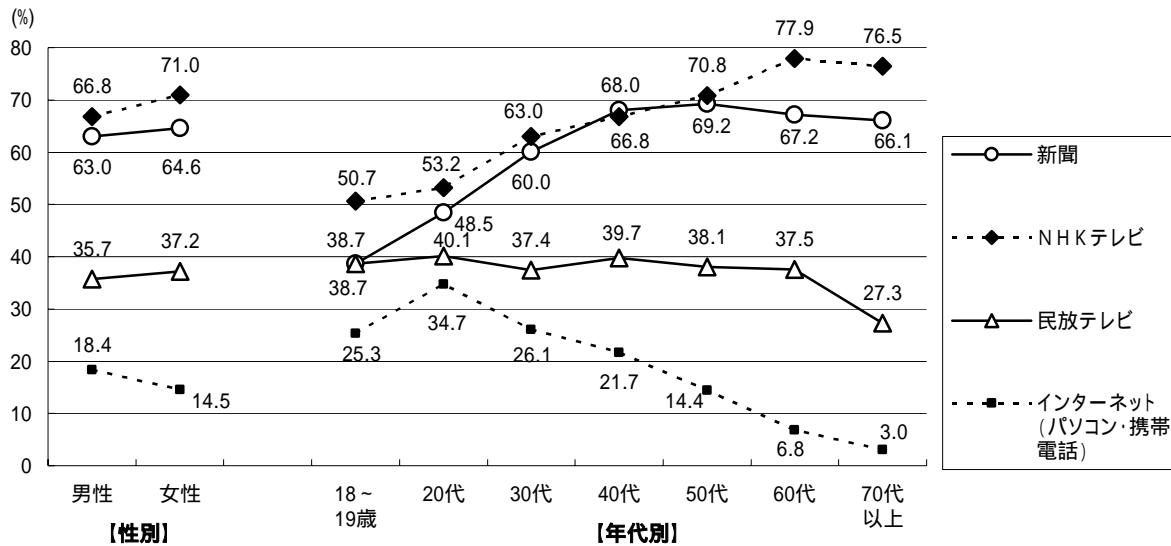
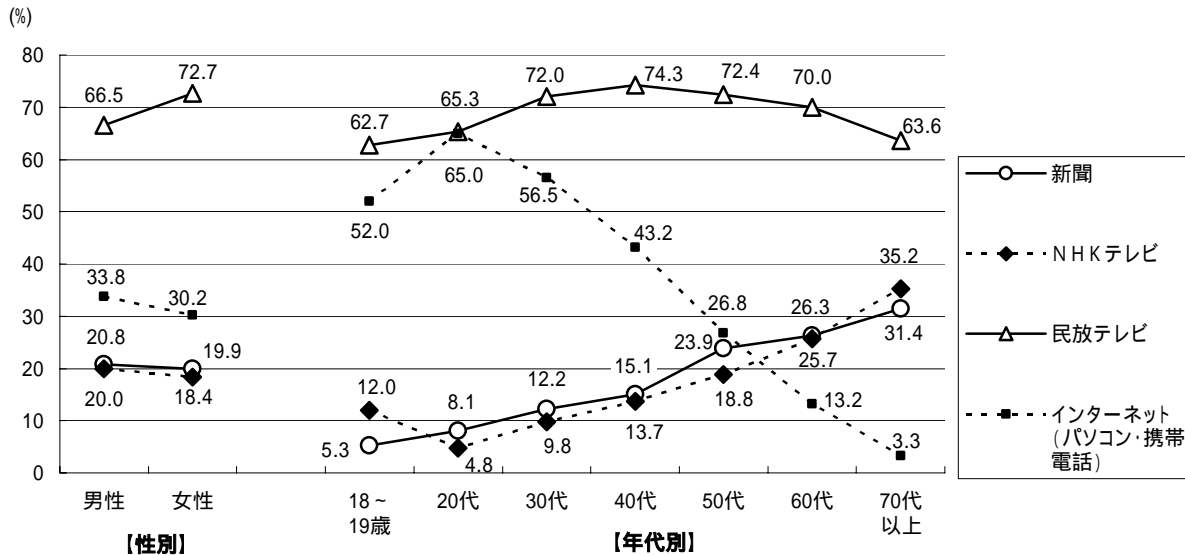


図 1 - 3 「情報が面白い・楽しい」とした人の割合（性・年代別）

(複数回答、n=3,459)



2. 各メディアの情報の信頼度は？（*）

- 1位「NHK テレビ」73.5点、2位「新聞」72.0点、3位「民放テレビ」65.3点。
新聞の情報信頼度、1.1ポイント回復。 -

- ・各メディアの情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として点数化したところ、平均点が最も高かったのは「NHK テレビ」で73.5点、次いで「新聞」が72.0点、「民放テレビ」が65.3点となっている。
- ・性別、年代別に見ても、「NHK テレビ」、「新聞」がすべてのカテゴリーで上位2位を占めており、幅広く厚い信頼を得ていることが分かる。また、3位には70代以上を除き「民放テレビ」、70代以上では「ラジオ」があげられている。
- ・一昨年実施した第1回調査（2008年12月、標本数3,000、以下、「一昨年度調査」と言う）、昨年実施した第2回調査（2009年10月、標本数5,000、以下、「昨年度調査」と言う）でも、1位「NHK」（昨年度74.0点、一昨年度73.5点）、2位「新聞」（同72.0点、同70.9点）、3位「民放テレビ」（同65.4点、同63.6点）で、順位に変化はなかったものの、昨年度から今年にかけて新聞が1.1ポイント、民放テレビが1.7ポイント信頼度が回復している。

図2-1 各メディアの信頼度

(n=3,459)

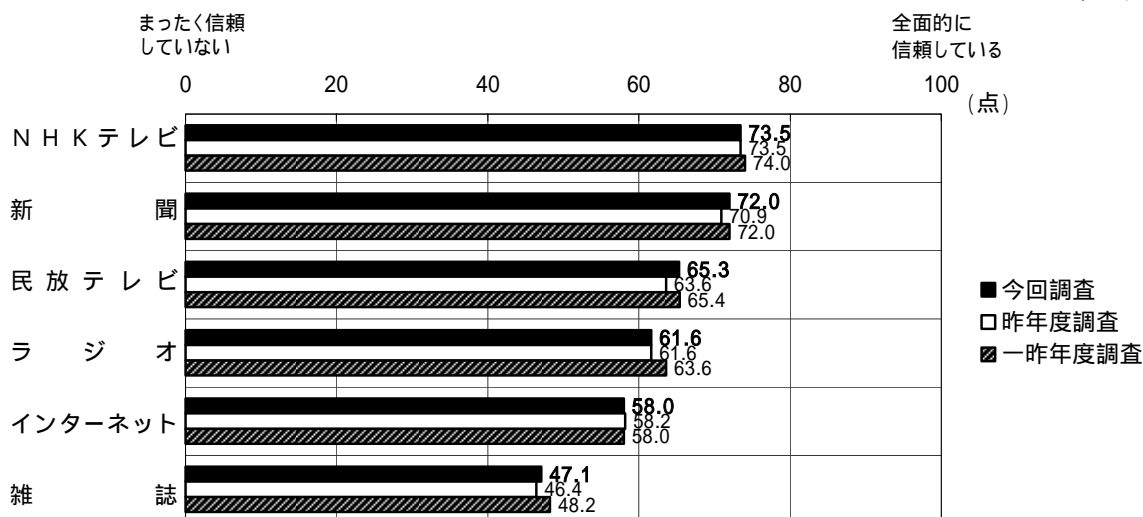


表2-1 各メディアの信頼度（性・年代別）

(n=3,459) (点)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
総数	NHKテレビ 73.5	新聞 72.0	民放テレビ 65.3	ラジオ 61.6	インターネット 58.0	雑誌 47.1
男性	NHKテレビ 72.9	新聞 71.4	民放テレビ 64.8	ラジオ 61.2	インターネット 57.7	雑誌 46.4
女性	NHKテレビ 74.1	新聞 72.6	民放テレビ 65.8	ラジオ 62.0	インターネット 58.3	雑誌 47.8
18-19歳	NHKテレビ 70.8	新聞 68.7	民放テレビ 66.9	インターネット 63.0	ラジオ 59.2	雑誌 48.8
20代	NHKテレビ 68.1	新聞 66.6	民放テレビ 64.8	インターネット 62.0	ラジオ 56.4	雑誌 49.9
30代	NHKテレビ 71.1	新聞 70.4	民放テレビ 65.3	インターネット 60.0	ラジオ 58.6	雑誌 47.5
40代	NHKテレビ 72.1	新聞 71.9	民放テレビ 65.5	ラジオ 60.9	インターネット 58.7	雑誌 46.8
50代	NHKテレビ 72.7	新聞 72.4	民放テレビ 64.6	ラジオ 62.2	インターネット 57.9	雑誌 45.7
60代	NHKテレビ 77.2	新聞 74.2	民放テレビ 66.6	ラジオ 64.6	インターネット 56.7	雑誌 47.2
70代以上	NHKテレビ 77.3	新聞 74.5	ラジオ 65.0	民放テレビ 64.5	インターネット 51.1	雑誌 46.5

3 . 信頼している新聞の記事は？

- 「政治・経済・社会に関する報道」、信頼度 8 割以上。 -

・新聞の報道や掲載記事について信頼度を比較したところ、「社会に関する報道」の信頼度が 85.3% で最も高く、次いで、「天気予報」(84.4%)、「経済に関する報道」(83.9%)、「スポーツ・芸能に関する報道」(83.3%)、「政治に関する報道」(81.8%) の順で続き、いずれも 8 割を超えている。最も低い「世論調査の内閣支持率」の信頼度でも 66.7% と過半数を超えている。

・年代別に見ると、「社会に関する報道」「経済に関する報道」は 18 - 19 歳、70 代以上を除き、3 位以内に入っている。「天気予報」は、性別では女性、年代別では 50 代以上で 1 位にランクされている。

信頼層：「非常に信頼感を持っている」+「やや信頼感を持っている」

不信層：「あまり信頼感を持っていない」+「まったく信頼感を持ってない」

図 3 - 1 信頼している新聞の記事

(n=3,459)

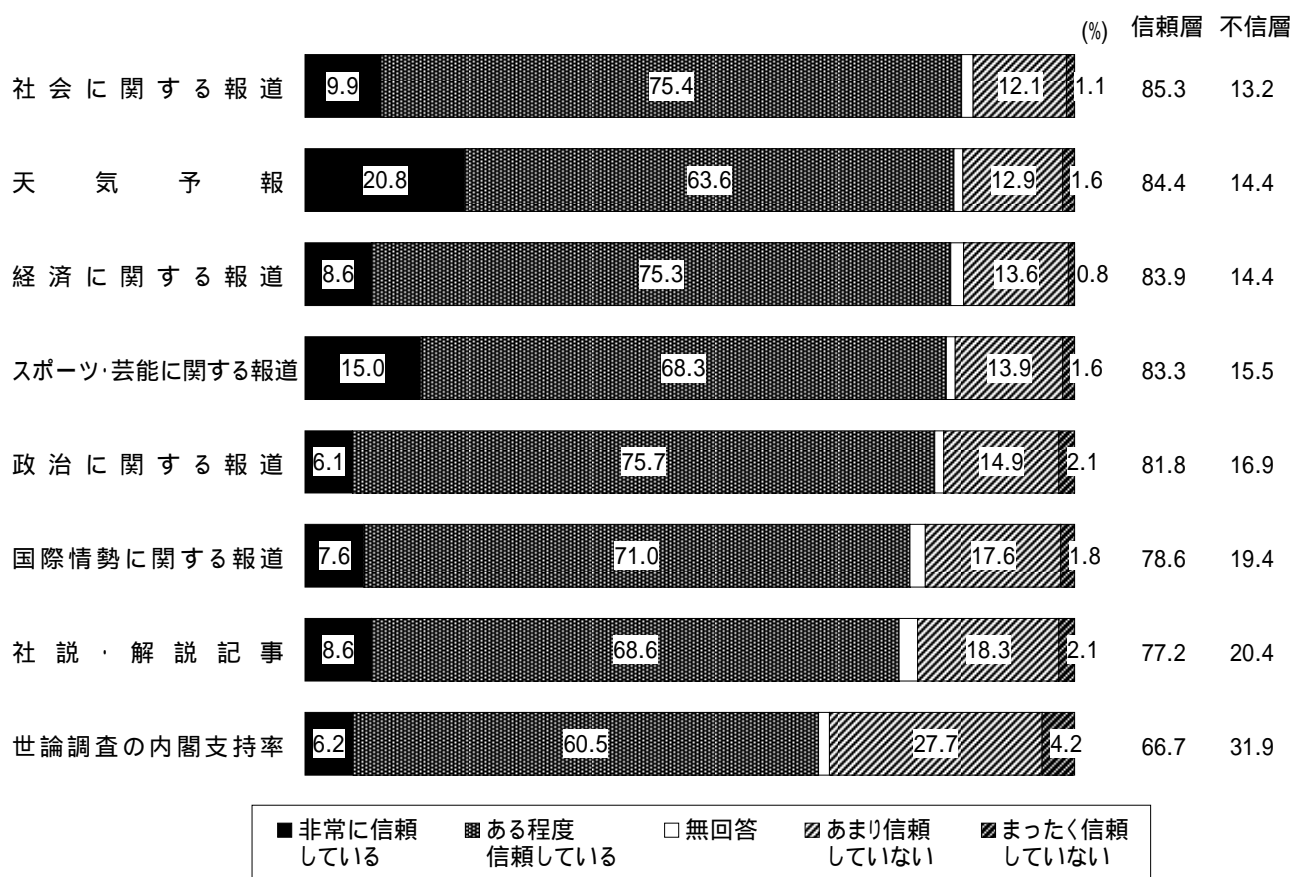


表 3 - 1 信頼している新聞の記事（性・年代別）

(n=3,459)

(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
総 数	社会 85.3	天気予報 84.4	経済 83.9	スポーツ・ 芸能 83.3	政治 81.8	国際情勢 78.6	社説・解説 記事 77.2	世論調査の 内閣支持率 66.7
男 性	社会 85.1	経済 84.0	スポーツ・ 芸能 83.7	天気予報 82.8	政治 80.9	国際情勢 77.6	社説・解説 記事 72.8	世論調査の 内閣支持率 63.8
女 性	天気予報 85.9	社会 85.5	経済 83.7	スポーツ・ 芸能 82.9	政治 82.7	社説・解説 記事 81.2	国際情勢 79.5	世論調査の 内閣支持率 69.4
18-19歳	スポーツ・ 芸能 80.0	政治 / 経済 77.3	世論調査の 内閣支持率 74.7	天気予報 73.3	社会 / 社説・解説 記事 72.0	国際情勢 69.3		
20 代	社会 82.1	経済 81.8	スポーツ・ 芸能 79.6	国際情勢 76.2	天気予報 75.6	政治 72.8	社説・解説 記事 72.0	世論調査の 内閣支持率 65.0
30 代	社会 86.9	経済 85.9	スポーツ・ 芸能 81.1	国際情勢 80.6	天気予報 79.4	政治 78.9	社説・解説 記事 77.0	世論調査の 内閣支持率 68.3
40 代	社会 89.0	経済 87.2	スポーツ・ 芸能 86.3	天気予報 85.3	政治 83.6	国際情勢 82.9	社説・解説 記事 76.2	世論調査の 内閣支持率 71.6
50 代	天気予報 87.8	社会 85.7	経済 85.1	スポーツ・ 芸能 82.1	政治 81.1	国際情勢 80.9	社説・解説 記事 76.9	世論調査の 内閣支持率 67.1
60 代	天気予報 87.2	社会 83.8	経済 83.7	政治 83.5	スポーツ・ 芸能 82.9	社説・解説 記事 79.8	国際情勢 74.6	世論調査の 内閣支持率 61.9
70代以上	天気予報 87.9	政治 87.6	スポーツ・ 芸能 86.4	社会 85.1	経済 79.8	社説・解説 記事 79.3	国際情勢 77.4	世論調査の 内閣支持率 65.6

4 . 信頼しているテレビ（NHK）の報道は？

- 「ニュース解説」、全メディアで一番の信頼度。 -

- ・ NHKテレビの各報道について信頼度を比較したところ、「天気予報」の信頼度が 89.8%で最も高く、次いで、「ニュース解説」(87.6%)、「社会に関する報道」(86.3%)の順が続いている。最も低い「世論調査の内閣支持率」の信頼度でも73.7%と7割を超えており、それ以外の項目ではいずれも8割を超える高い信頼度を得ている。
- ・ 年代別に見ると、「天気予報」はどの年代においても1位で、「ニュース解説」が40代を除き2位となっている。「天気予報」「ニュース解説」の信頼度は共に年代が上がるほど高くなっている。

信頼層：「非常に信頼感を持っている」+「やや信頼感を持っている」

不信層：「あまり信頼感を持っていない」+「まったく信頼感を持ってない」

図4-1 信頼しているテレビ（NHK）の報道

(n=3,459)

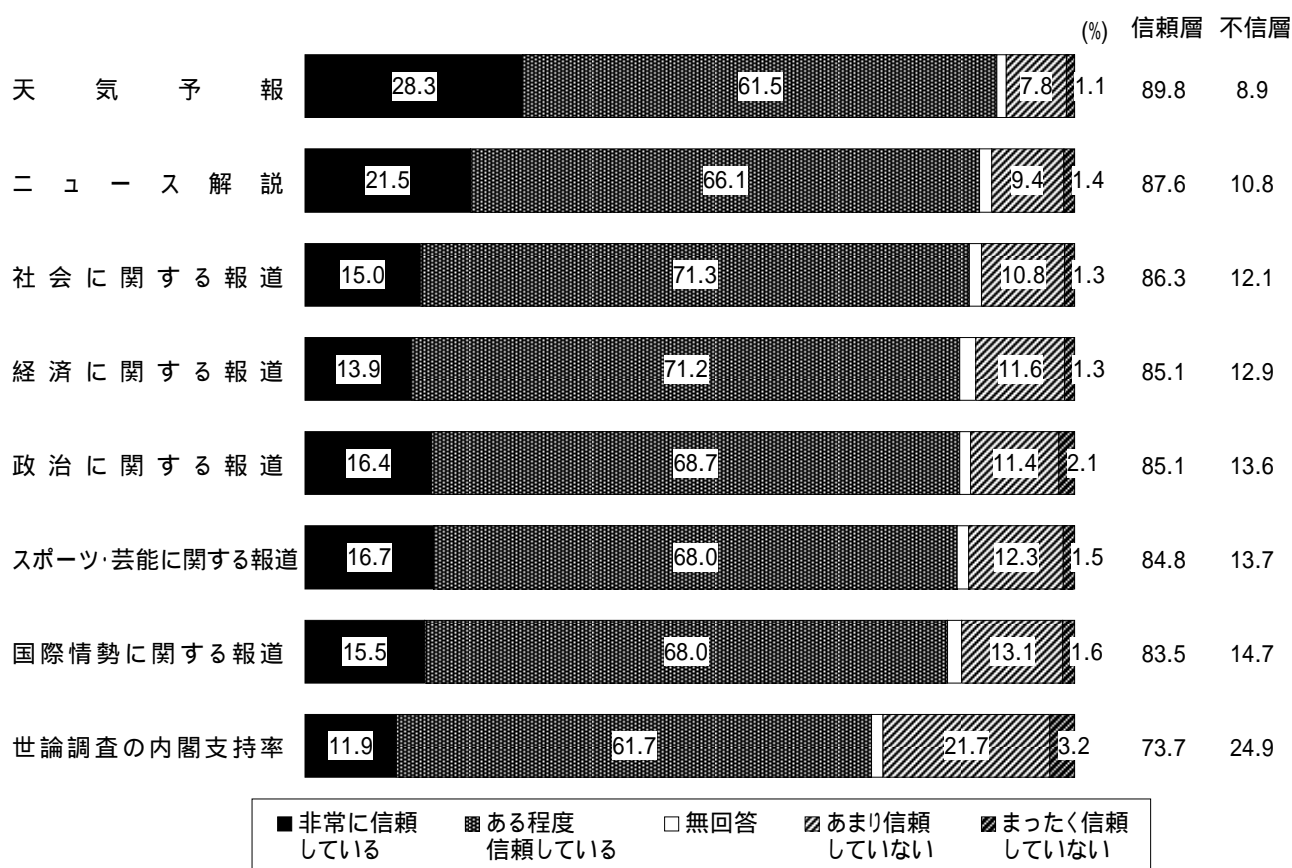


表 4 - 1 信頼しているテレビ（NHK）の報道（性・年代別）

(n=3,459)

(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
総 数	天気予報 89.8	ニュース解説 87.6	社会 86.3	政治 / 経済 85.1	スポーツ・ 芸能 84.8	国際情勢 83.5	世論調査の 内閣支持率 73.7	
男 性	天気予報 88.2	社会 86.4	ニュース解説 86.0	経済 84.9	スポーツ・ 芸能 84.8	政治 84.3	国際情勢 82.7	世論調査の 内閣支持率 71.0
女 性	天気予報 91.2	ニュース解説 89.0	社会 86.2	政治 85.8	経済 85.3	スポーツ・ 芸能 84.7	国際情勢 84.2	世論調査の 内閣支持率 76.1
18-19歳	天気予報 82.7	ニュース解説 80.0	経済 78.7	政治 77.3	社会 / スポーツ・ 芸能 76.0	世論調査の 内閣支持率 74.7	国際情勢 72.0	
20 代	天気予報 83.2	ニュース解説 81.2	社会 80.1	スポーツ・ 芸能 79.6	経済 79.3	国際情勢 77.6	政治 76.8	世論調査の 内閣支持率 69.7
30 代	天気予報 87.6	ニュース解説 85.6	経済 84.6	社会 84.3	スポーツ・ 芸能 81.7	政治 81.1	国際情勢 80.9	世論調査の 内閣支持率 72.6
40 代	天気予報 90.2	社会 88.7	ニュース解説 88.4	スポーツ・ 芸能 88.4	経済 87.2	国際情勢 85.6	政治 84.9	世論調査の 内閣支持率 77.2
50 代	天気予報 91.2	ニュース解説 87.5	社会 86.5	経済 85.6	国際情勢 84.9	政治 84.6	スポーツ・ 芸能 84.3	世論調査の 内閣支持率 72.0
60 代	天気予報 92.0	ニュース解説 89.5	政治 / 社会 88.7	スポーツ・ 芸能 86.9	経済 86.8	国際情勢 85.2	世論調査の 内閣支持率 72.7	
70代以上	天気予報 92.4	ニュース解説 91.2	政治 91.1	社会 87.8	スポーツ・ 芸能 86.3	経済 85.5	国際情勢 85.1	世論調査の 内閣支持率 76.2

5 . 信頼しているテレビ（民放）の報道は？

- 「ニュース解説」、「スポーツ・芸能」の信頼度は比較的高め。 -

- ・民放テレビの各報道について信頼度を比較したところ、「天気予報」の信頼度が88.3%で最も高く、次いで、「ニュース解説」(78.0%)、「スポーツ・芸能に関する報道」(76.4%)の順が続いている。最も低い「世論調査の内閣支持率」の信頼度でも64.5%と過半数を占めており、この項目を除いた他の項目ではいずれも7割を超える信頼度となっている。
- ・年代別に見ると、「天気予報」はどの年代においても1位になっている。「ニュース解説」は40代と50代を除き2位にランクされているが、40代では「スポーツ・芸能に関する報道」、50代では「経済に関する報道」が替わって2位にランクされている。

信頼層：「非常に信頼感を持っている」+「やや信頼感を持っている」

不信層：「あまり信頼感を持っていない」+「まったく信頼感を持ってない」

図5-1 信頼しているテレビ（民放）の報道

(n=3,459)

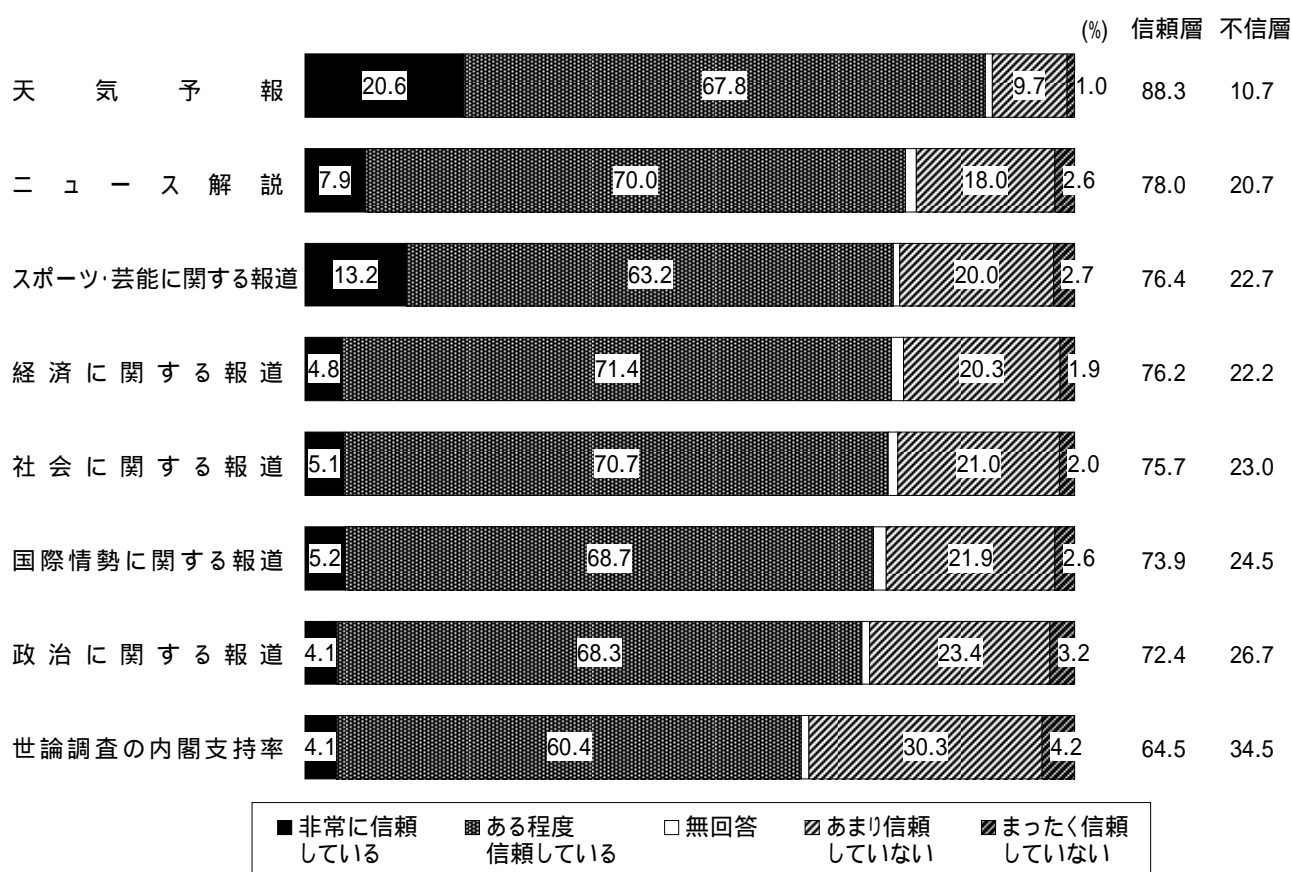


表 5 - 1 信頼しているテレビ（民放）の報道（性・年代別）

(n=3,459)

(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
総 数	天気予報 88.3	ニュース解説 78.0	スポーツ・ 芸能 76.4	経済 76.2	社会 75.7	国際情勢 73.9	政治 72.4	世論調査の 内閣支持率 64.5
男 性	天気予報 86.4	スポーツ・ 芸能 76.4	経済 74.9	ニュース解説 74.7	社会 74.1	国際情勢 71.7	政治 70.3	世論調査の 内閣支持率 61.6
女 性	天気予報 90.1	ニュース解説 80.9	経済 77.4	社会 77.2	スポーツ・ 芸能 76.4	国際情勢 75.9	政治 74.2	世論調査の 内閣支持率 67.1
18-19歳	天気予報 77.3	ニュース解説 76.0	経済 74.7	社会 73.3	スポーツ・ 芸能 72.0	政治 70.7	国際情勢 69.3	世論調査の 内閣支持率 64.0
20 代	天気予報 87.7	ニュース解説 75.6	スポーツ・ 芸能 74.5	経済 74.2	国際情勢 73.7	社会 70.0	政治 66.1	世論調査の 内閣支持率 63.3
30 代	天気予報 88.0	ニュース解説 79.1	社会 77.2	経済 76.3	国際情勢 75.0	スポーツ・ 芸能 73.7	政治 68.1	世論調査の 内閣支持率 65.0
40 代	天気予報 88.2	スポーツ・ 芸能 78.1	経済 77.4	ニュース解説 76.7	国際情勢 76.4	社会 76.2	政治 72.8	世論調査の 内閣支持率 66.6
50 代	天気予報 89.9	経済 76.0	ニュース解説 75.6	スポーツ・ 芸能 75.5	社会 75.3	国際情勢 75.0	政治 72.4	世論調査の 内閣支持率 64.1
60 代	天気予報 89.9	ニュース解説 79.5	スポーツ・ 芸能 77.9	経済 77.2	社会 77.2	政治 73.9	国際情勢 70.9	世論調査の 内閣支持率 63.1
70代以上	天気予報 87.3	ニュース解説 80.5	スポーツ・ 芸能 78.2	政治 78.0	社会 76.5	経済 75.5	国際情勢 73.6	世論調査の 内閣支持率 64.6

6 . 信頼しているインターネット情報は？

- 「政治」「経済」「社会」など主要な報道分野、信頼感5割にとどまる。 -

・インターネットの各情報について信頼感を比較したところ、「天気予報」の信頼度が68.5%で最も高く、次いで、「スポーツ・芸能に関する報道」(55.9%)、「経済に関する報道」(54.7%)の順で続いている。いずれのメディアでも信頼度が高い「天気予報」を除くと、各報道分野の信頼度は5割台以下にとどまった。

・年代別に見ると、「天気予報」はどの年代においても1位になっている。18 - 19歳は「社会に関する報道」、40代から60代では「スポーツ・芸能に関する報道」、70代以上は「ニュース解説」がそれぞれ2位にランクされているが、どの項目も概ね20代から40代で信頼層の割合が高い。

信頼層：「非常に信頼感を持っている」+「やや信頼感を持っている」

不信層：「あまり信頼感を持っていない」+「まったく信頼感を持っていない」

図6-1 信頼しているインターネット情報

(n=3,459)

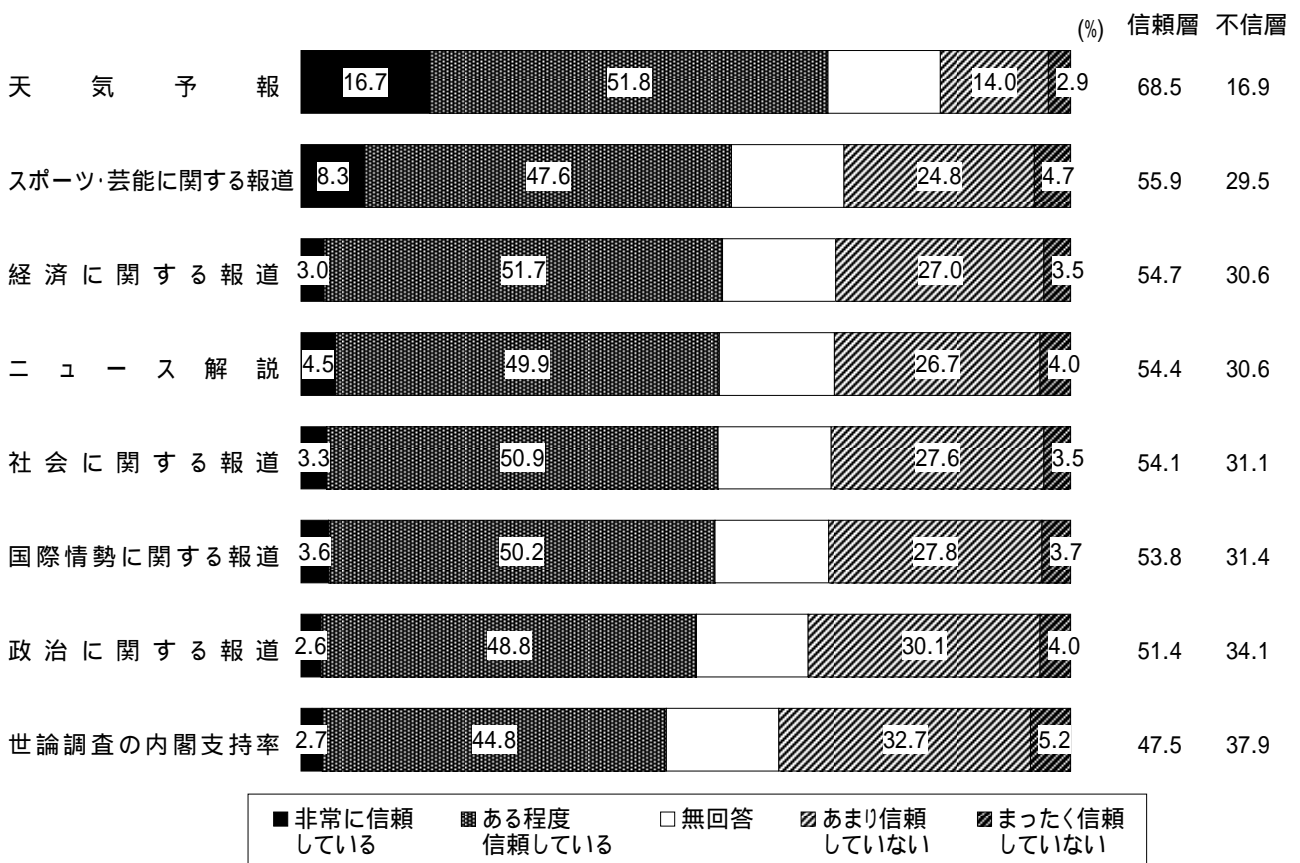


表 6 - 1 信頼しているインターネット情報（性・年代別）

(n=3,459)

(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
総 数	天気予報 68.5	スポーツ・ 芸能 55.9	経済 54.7	ニュース解説 54.4	社会 54.1	国際情勢 53.8	政治 51.4	世論調査の 内閣支持率 47.5
男 性	天気予報 70.5	スポーツ・ 芸能 58.4	社会 56.5	経済 56.4	国際情勢 55.6	ニュース解説 54.7	政治 53.7	世論調査の 内閣支持率 48.4
女 性	天気予報 66.7	ニュース解説 54.2	スポーツ・ 芸能 53.6	経済 53.2	国際情勢 52.2	社会 52.0	政治 49.3	世論調査の 内閣支持率 46.6
18-19歳	天気予報 72.0	政治 64.0	社会 61.3	経済 60.0	スポーツ・ 芸能 58.7	国際情勢 / ニュース解説	ニュース解説 57.3	世論調査の 内閣支持率 54.7
20 代	天気予報 82.4	社会 68.6	国際情勢 68.3	経済 / スポーツ・ 芸能 68.1	スポーツ・ 芸能 68.1	ニュース解説 67.2	政治 62.5	世論調査の 内閣支持率 58.0
30 代	天気予報 82.6	社会 70.4	経済 68.9	ニュース解説 67.6	国際情勢 67.2	スポーツ・ 芸能 66.5	政治 63.5	世論調査の 内閣支持率 58.7
40 代	天気予報 82.0	スポーツ・ 芸能 68.5	経済 67.8	国際情勢 66.6	社会 66.3	ニュース解説 63.7	政治 63.0	世論調査の 内閣支持率 59.9
50 代	天気予報 73.9	スポーツ・ 芸能 59.3	経済 / ニュース解説	ニュース解説 55.6	国際情勢 55.0	社会 54.2	政治 52.2	世論調査の 内閣支持率 47.6
60 代	天気予報 58.0	スポーツ・ 芸能 47.2	ニュース解説 45.0	経済 43.8	国際情勢 43.2	社会 42.6	政治 41.5	世論調査の 内閣支持率 38.9
70代以上	天気予報 40.5	ニュース解説 35.0	スポーツ・ 芸能 32.7	経済 32.2	社会 31.4	政治 31.2	国際情勢 30.9	世論調査の 内閣支持率 27.8

7. 各組織、団体の信頼感は？（*）

- 「検察」を信頼できない、信頼できるを上回る。
政治への不信感も昨年度に引き続き強い。

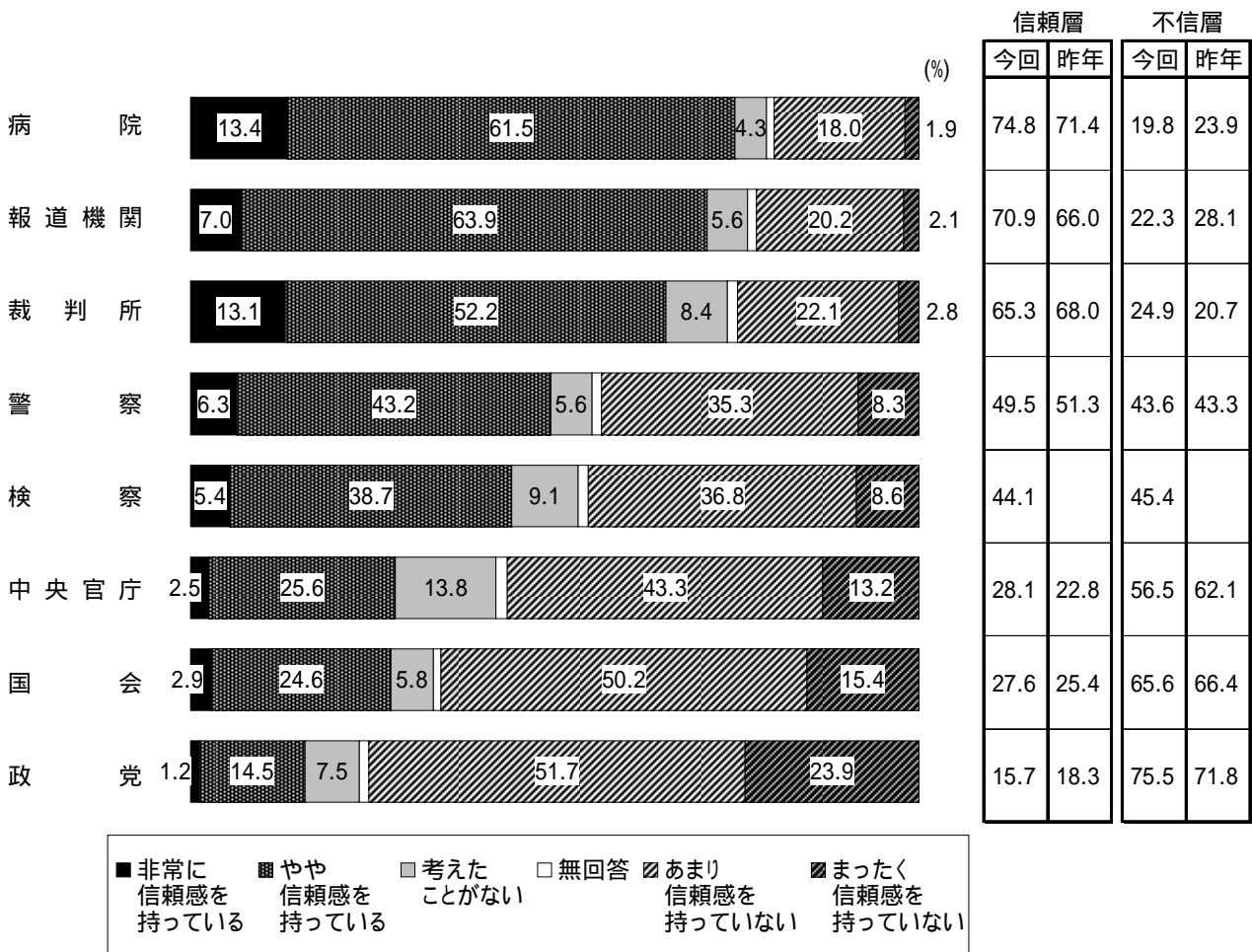
- ・さまざまな組織や団体に対して信頼感を比較したところ、「病院」の信頼層が74.8%で最も多く、次いで、「報道機関」(70.9%)、「裁判所」(65.3%)の順で続き、いずれも半数を超えている。一方、「中央官庁」「国会」「政党」の信頼層は3割を切り(28.1%、27.6%、15.7%)、不信層が過半数(56.5%、65.6%、75.5%)を占め、政治への不信感が強いことが見て取れる。
- ・大阪地検特捜部の検事による証拠改ざん事件が問題になった「検察」も、信頼層44.1%に対し不信層が45.4%で上回っていた。
- ・年代別に信頼層の割合を見ると、「病院」はどの年代においても2位以内に入っている。「報道機関」は、年代が上がるほど多くなる傾向が見られ、40代と50代では1位、60代以上では2位にランクされている。「国会」「中央官庁」「政党」はどの年代においても6位以下に低迷している。

信頼層：「非常に信頼感を持っている」+「やや信頼感を持っている」

不信層：「あまり信頼感を持っていない」+「まったく信頼感を持っていない」

図7-1 各組織、団体の信頼感

(n=3,459)



注： は、昨年度調査では選択肢になかった

表7-1 各組織、団体の信頼感（信頼層の割合、性・年代別）

(n=3,459)

（%）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
総数	病院 74.8	報道機関 70.9	裁判所 65.3	警察 49.5	検察 44.1	中央官庁 28.1	国会 27.6	政党 15.7
男性	病院 74.8	報道機関 72.0	裁判所 67.0	警察 50.1	検察 44.7	国会 27.5	中央官庁 27.3	政党 14.3
女性	病院 74.8	報道機関 69.8	裁判所 63.8	警察 49.0	検察 43.6	中央官庁 28.8	国会 27.6	政党 16.9
18-19歳	病院 76.0	裁判所 49.3	報道機関 44.0	警察 40.0	検察 36.0	国会 21.3	中央官庁 21.3	政党 16.0
20代	病院 73.4	裁判所 64.1	報道機関 57.4	検察 42.9	警察 42.9	中央官庁 26.6	国会 21.0	政党 13.7
30代	病院 72.2	裁判所 65.0	報道機関 64.3	警察 43.3	検察 39.1	中央官庁 23.5	国会 21.7	政党 11.5
40代	報道機関 73.3	病院 71.9	裁判所 68.5	警察 48.8	検察 43.2	中央官庁 27.7	国会 22.6	政党 13.4
50代	報道機関 74.8	病院 72.1	裁判所 67.5	警察 49.8	検察 44.9	国会 27.4	中央官庁 25.2	政党 13.1
60代	病院 78.9	報道機関 77.6	裁判所 68.1	警察 54.2	検察 50.0	国会 30.4	中央官庁 29.8	政党 17.1
70代以上	病院 78.8	報道機関 74.0	裁判所 59.8	警察 55.4	検察 44.0	国会 39.2	中央官庁 35.2	政党 23.8

新聞への意見

8 . 新聞についてどう思う? (*)

- 情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価。 -
「多種多様な情報を知ることができる」が73.6%

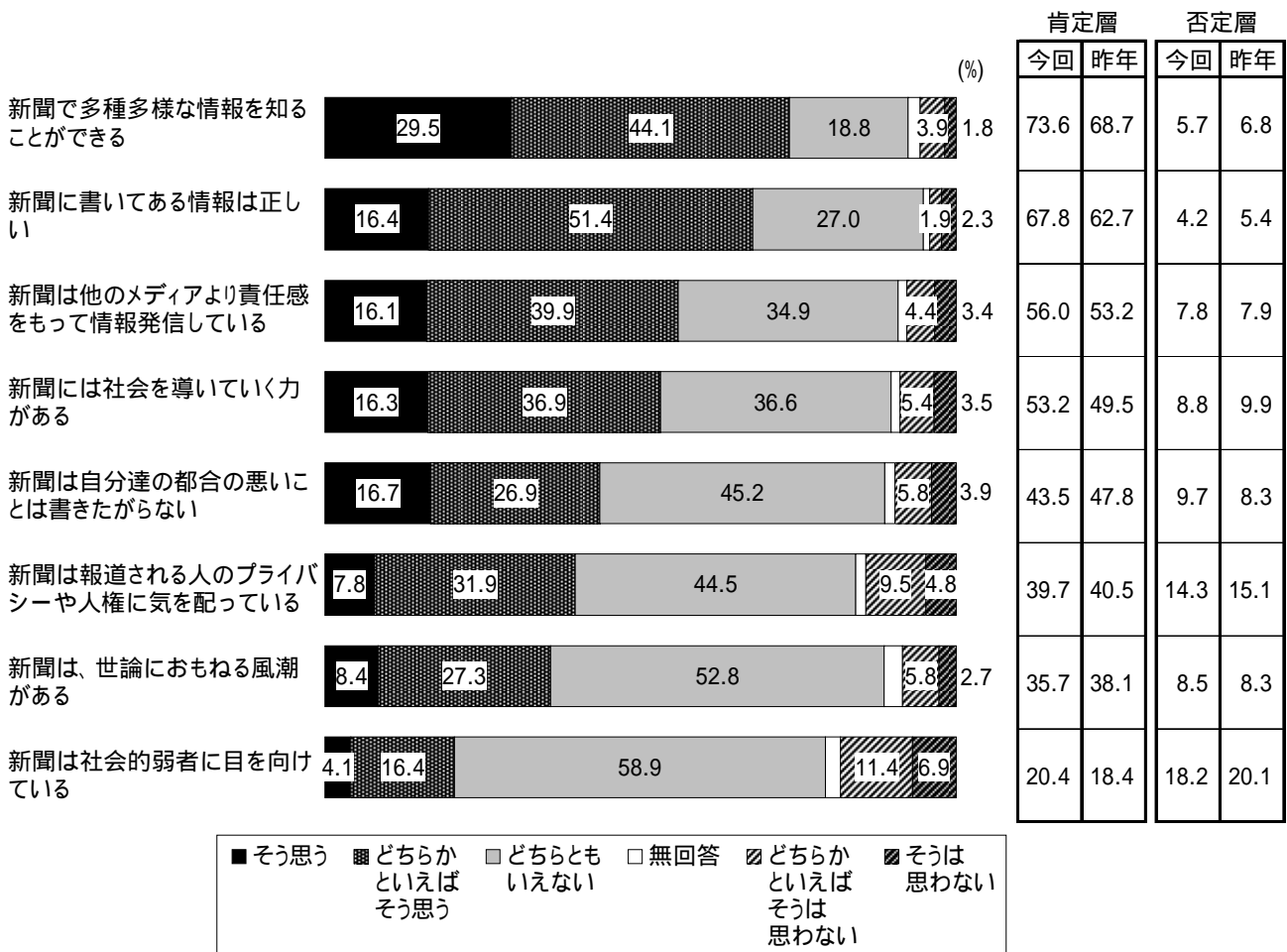
- ・新聞についての印象や意見について、肯定層の占める割合を比較すると、「新聞で多種多様な情報を知ることができる」(73.6%)が最も多く、次いで、「新聞に書いてある情報は正しい」(67.8%)、「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」(56.0%)、「新聞には社会を導いていく力がある」(53.2%)の順に多くなっており、新聞が発信している情報に対する評価は高い。
- ・他方、「新聞は報道される人のプライバシーや人権に気を配っている」と「新聞は社会的弱者に目を向けている」で、否定層がそれぞれ14.3%、18.2%を占め、新聞の報道倫理に対しては比較的厳しい目が向けられている。
- ・昨年度調査と比較すると、「新聞で多種多様な情報を知ることができる」への肯定層が4.9ポイント増、「新聞に書いてある情報は正しい」が5.1ポイント増、「新聞には社会を導いていく力がある」が3.7ポイント増となり、新聞の報道姿勢を評価する回答が増加した。

肯定層：「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

否定層：「どちらかといえばそうは思わない」+「そうは思わない」

図8-1 新聞についての印象や意見

(n=3,459)



- ・「新聞で多種多様な情報を知ることができる」の肯定層はどの年代でも多く、40代以上で7割を超え、最も少ない20代でも5割台後半となっている。どの世代においても、幅広い情報を得られる媒体という点が評価されていることが分かる。
- ・「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」の肯定層は、年代が上がるほど増加する傾向が見られ、40代以上で半数を超えている。
- ・「新聞は社会的弱者に目を向けている」の否定層は、20代で3割弱と最も多い。また、20代と30代では、否定層が肯定層を上回っている。

図 8 - 2 「新聞で多種多様な情報を知ることができる」(性・年代別) (n=3,459)

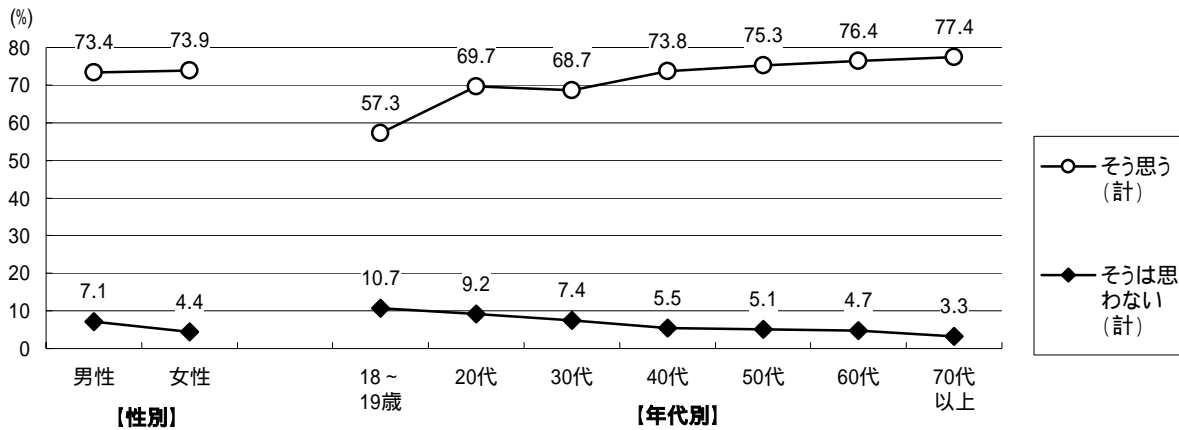


図 8 - 3 「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」(性・年代別) (n=3,459)

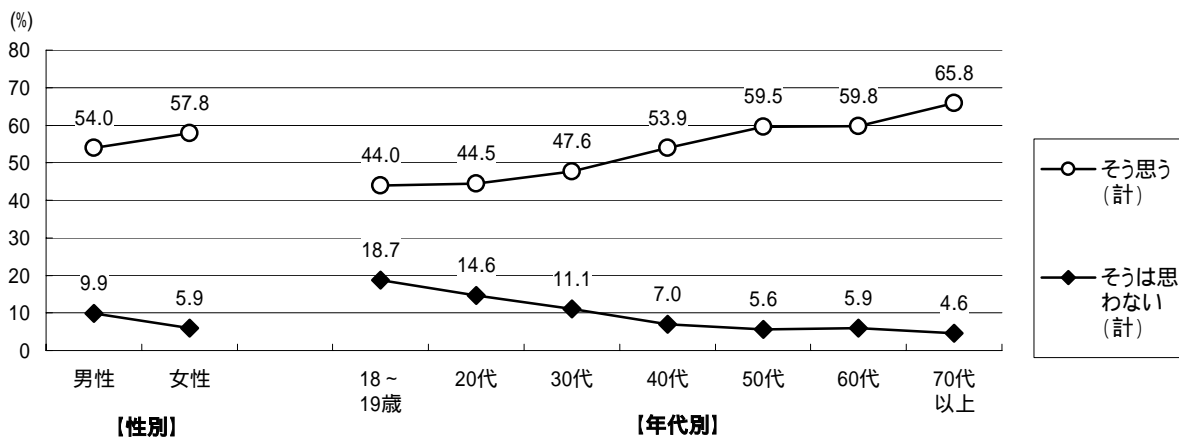
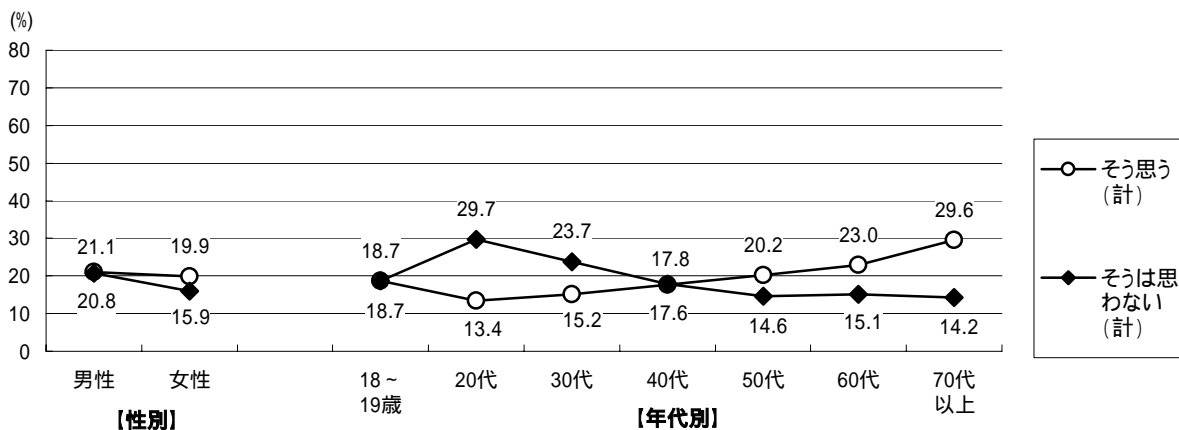


図 8 - 4 「新聞は社会的弱者に目を向けている」(性・年代別) (n=3,459)



9 . 新聞の政治に対する態度についてどう思う? (*)

- 「不正を追及」「客観的な視点」に4割強が肯定、昨年度より評価が高まる。
「政治家についてすべて報道している」には厳しい評価。 -

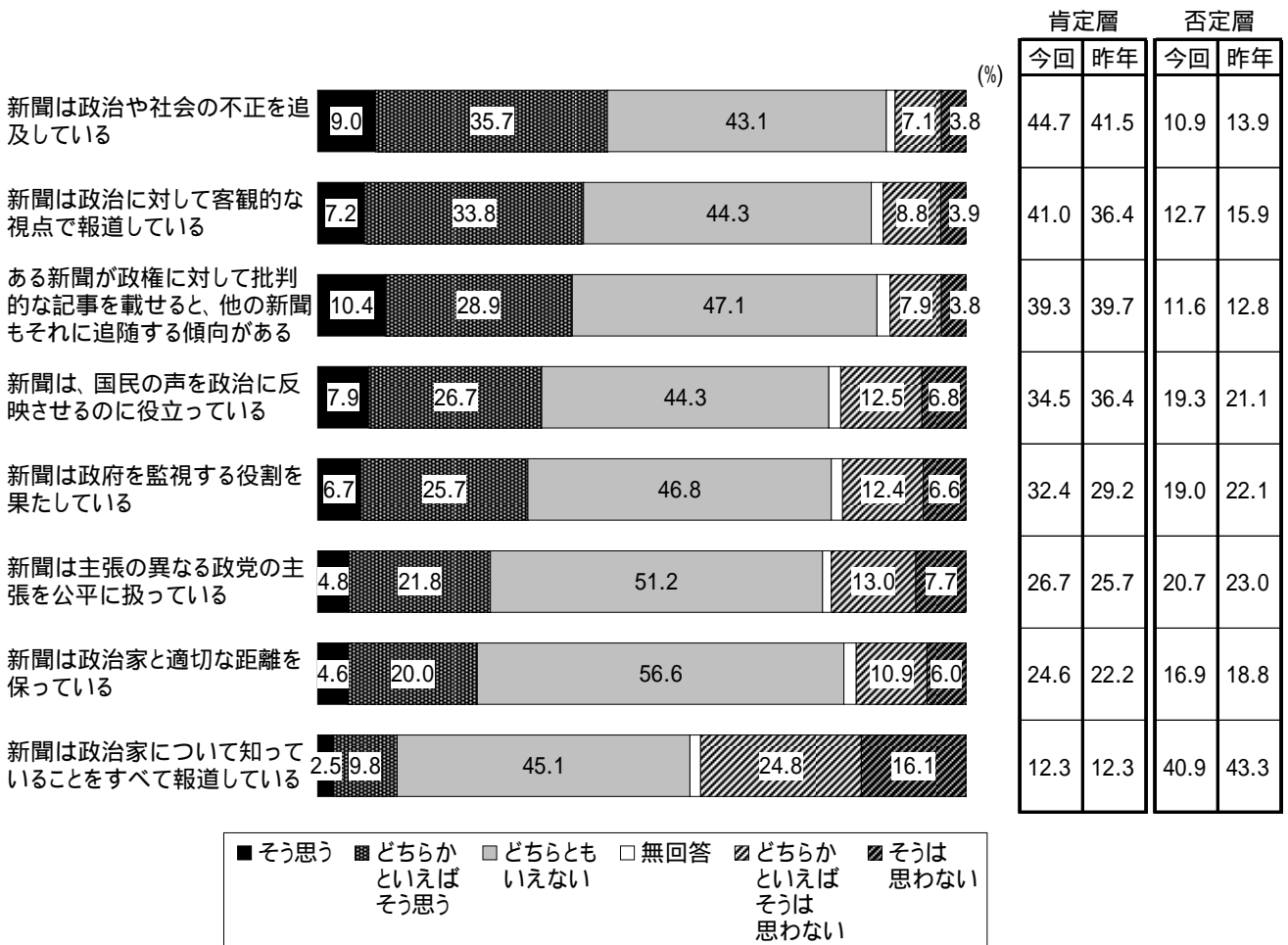
- ・新聞と政治の関係についての意見に関して、肯定層の占める割合を比較したところ、「新聞は政治や社会の不正を追及している」(44.7%) が最も多く、次いで、「新聞は政治に対して客観的な視点で報道している」(41.0%)、「ある新聞が政権に対して批判的な記事を載せると、他の新聞もそれに追随する傾向がある」(39.3%) が多くなっている。
- ・新聞と政治家の関わりに関する項目については評価が低い傾向にある。「新聞は政治家について知っていることをすべて報道している」の否定層が40.9%に上り、「新聞は政治家と適切な距離を保っている」の肯定層が24.6%にとどまるなど評価が厳しい。
- ・昨年度調査と比較すると、「新聞は政治や社会の不正を追及している」への肯定層が3.2ポイント増、「新聞は政治に対して客観的な視点で報道している」が4.6ポイント増、「新聞は政府を監視する役割を果たしている」が3.2ポイント増と、新聞報道が政治に対して果たしている役割への評価が高まっている。

肯定層:「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

否定層:「どちらかといえばそうは思わない」+「そうは思わない」

図9-1 新聞と政治についての意見

(n=3,459)



- ・「新聞は政治や社会の不正を追及している」の肯定層は、30代（33.9%）で最も少なく、それ以降年代が上がるにつれて多くなっている。30代以上では、年代の上昇と共に否定層との差も大きく開いている。
- ・「新聞は政治に対して客観的な視点で報道している」は、20代と30代で肯定層が少なく、60代以上で肯定層が多くなっている。また、女性よりも男性で否定層が5ポイントほど多い。
- ・「新聞は、政治家について知っていることをすべて報道している」も、20代と30代で否定層が多く、肯定層を逆転している。また、男性の否定層が女性より7ポイント多かった。

図9-2 新聞は政治や社会の不正を追及している（性・年代別）

(n=3,459)

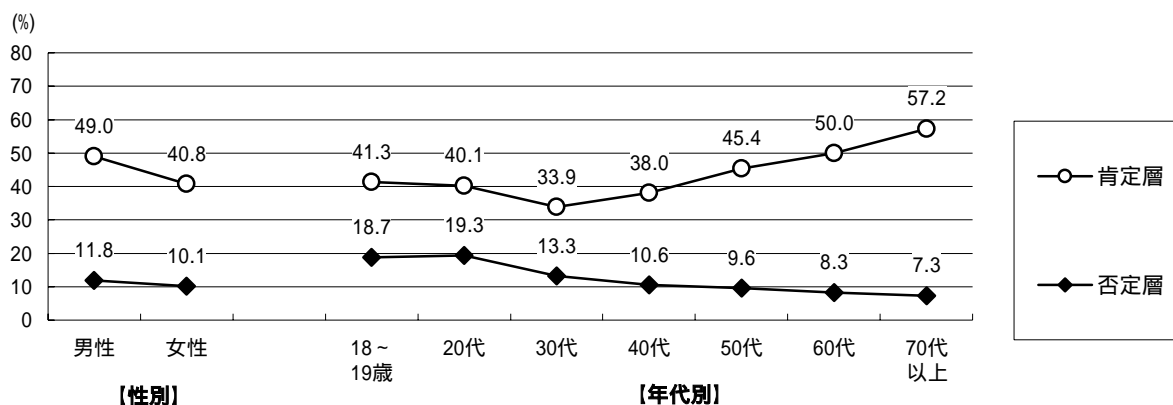


図9-3 新聞は政治に対して客観的な視点で報道している（性・年代別）

(n=3,459)

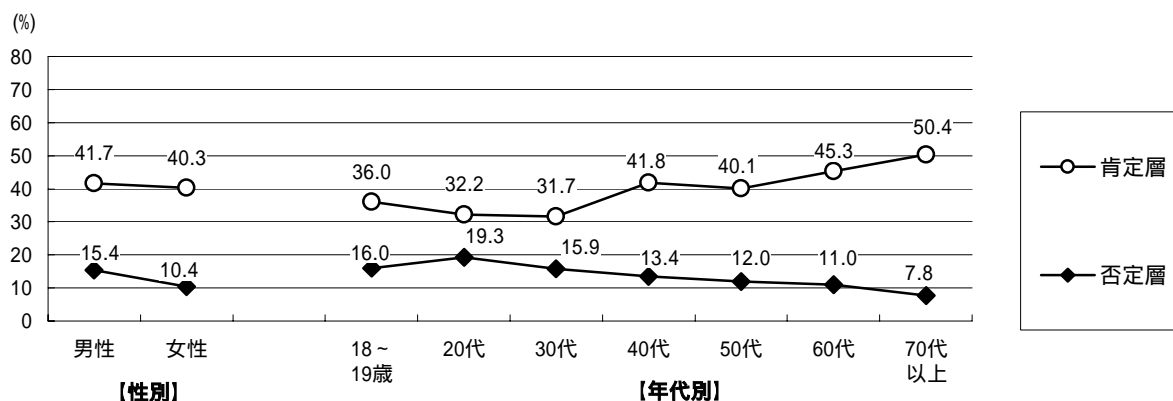
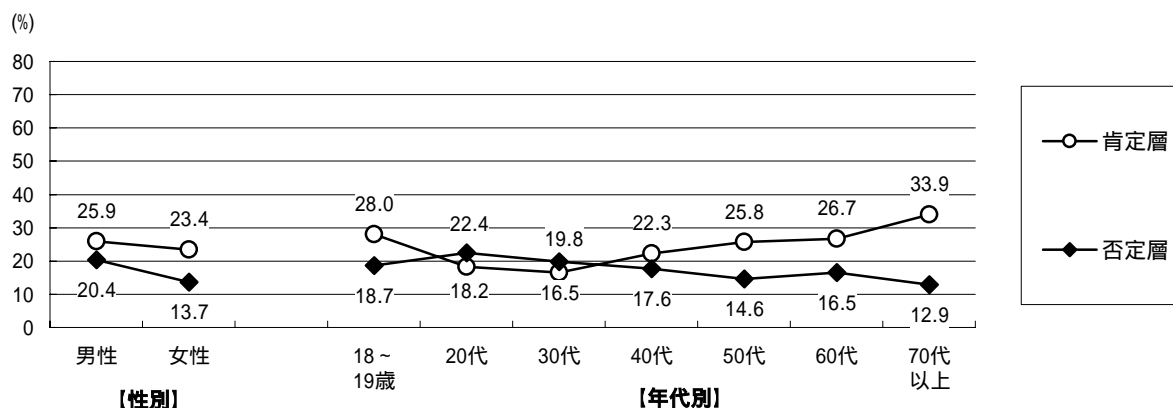


図9-4 新聞は政治家と適切な距離を保っている（性・年代別）

(n=3,459)



10. 新聞の政治的立場についてどう思う? (*)

- 欧米のように政治色を出すことには否定的なのは昨年度と変わらず。 -
「独自色」は 15.0%、「不偏不党」67.2%

- ・新聞の政治的立場について、「A：新聞は、それぞれ独自の政治色をはっきり出した方がよい」と考える独自色派は 15.0%で、「B：新聞は、1つの政党に偏ることなく不偏不党を貫くべきだ」と考える不偏不党派が 67.2%と多く、欧米のように新聞に政治色を出すことには否定的な意見が圧倒的多数を占めていた。昨年度より独自色派がわずかに増加したが、全体的な傾向に変化はなかった。
- ・年代別に見ると、不偏不党派はいずれの年代でも 5～7割 (59.3～71.7%) を占め、独自色派 (12.0～19.8%) を大きく上回っており、新聞は不偏不党であるべきとの意見が強いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、不偏不党派優位の傾向は変わらないが、20代、50代、70代以上では不偏不党派が減少したのに対し、18-19歳では増加している。

独自色派：「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」
不偏不党派：「どちらかといえばBに近い」+「Bに近い」

図 10-1 新聞の政治的立場についての意見 (n=3,459)

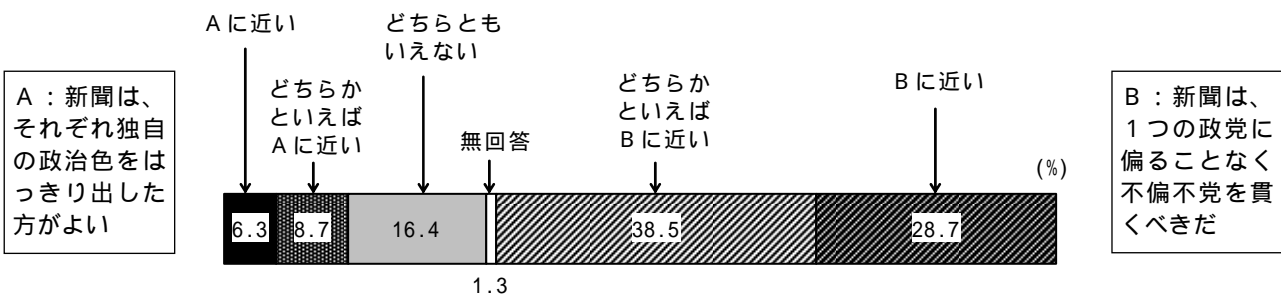
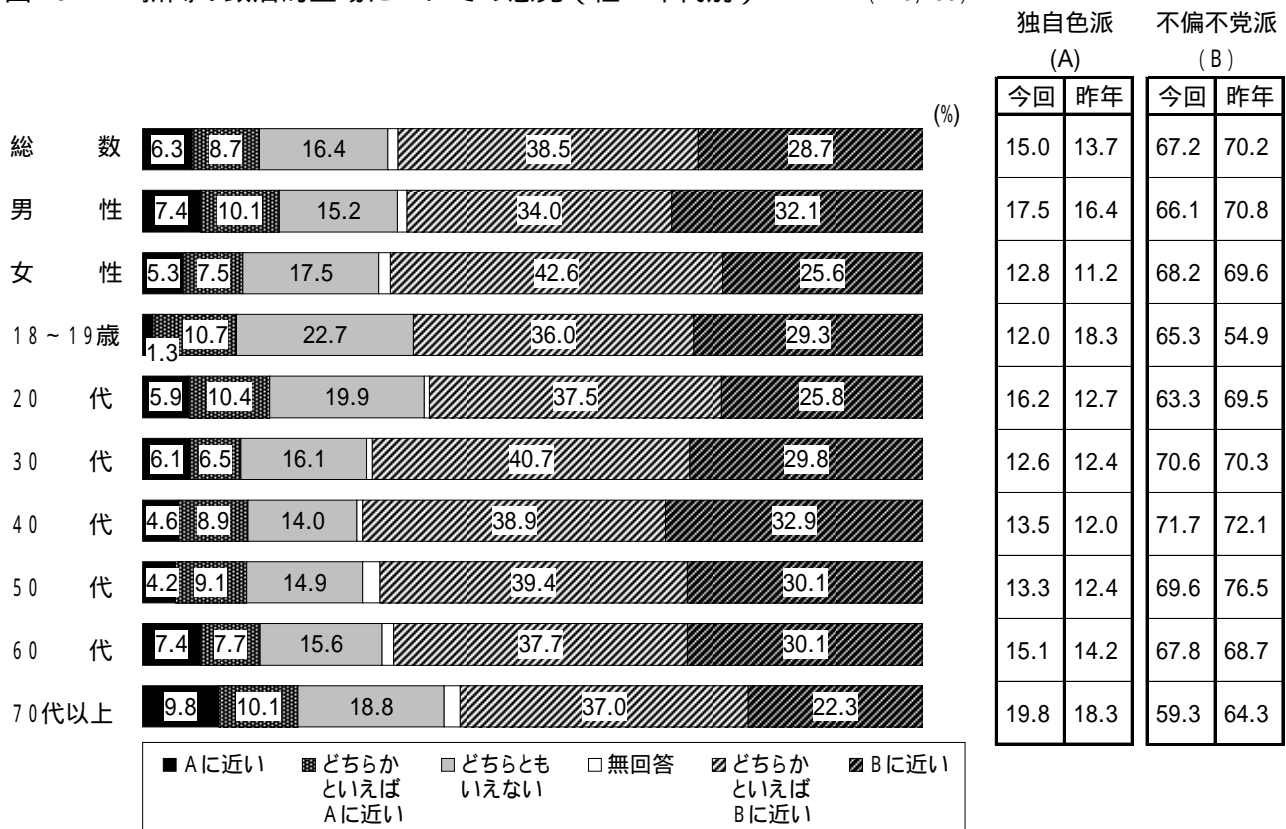


図 10-2 新聞の政治的立場についての意見 (性・年代別) (n=3,459)



11. 新聞の記事の満足度は？（*）

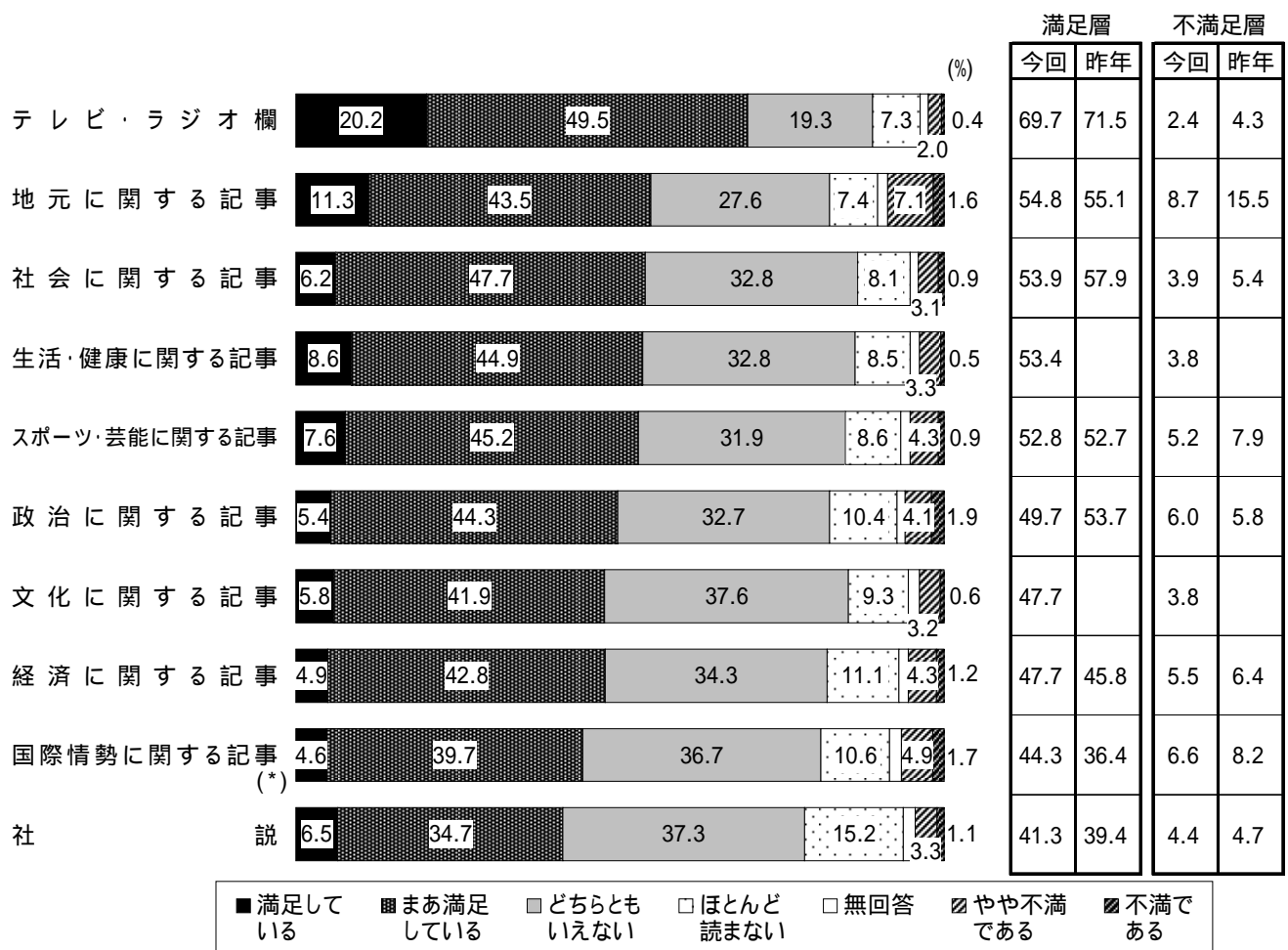
- ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い。 -

- ・新聞の各記事について満足層の占める割合を比較すると、「テレビ・ラジオ欄」が69.7%と7割を占め、テレビ・ラジオなど他のメディアへの窓口として新聞を利用する人が多いことが分かる。次いで「地元に関する記事」(54.8%)、「社会に関する記事」(53.9%)で満足層が多く、生活に密着した身近な記事の満足度が高かった。
- ・「社説」「国際情勢に関する記事」の満足層は4割前半(41.3%、44.3%)と少ないが、不満足層も1割(4.4%、6.6%)を下回っており、「どちらともいえない」や「ほとんど読まない」が多く、閲読度が低いことがうかがえる。
- ・昨年度調査との比較では、「地元に関する記事」の不満足層が減少し、選択肢の表記を変更したものの「国際情勢に関する記事」(昨年度は「国際関係に関する記事」)の満足層が増加している。

満足層：「満足している」+「まあ満足している」
不満足層：「やや不満である」+「不満である」

図 11-1 新聞の記事の満足度

(n=3,459)



注： は、昨年度調査では選択肢になかった
(*) 昨年度は「国際関係に関する記事」

- ・「テレビ・ラジオ欄」は、概ね年代の上昇と共に満足層も増えているが、年代差は小さくすべての年代で最も満足度が高くなっている。「地元に関する記事」「社会に関する記事」も満足層は年代が上がるにつれて多くなる傾向が見られ、最も少ない18 - 19歳と最も多い70代以上の差が大きい。
- ・「政治に関する記事」「経済に関する記事」「国際情勢に関する記事」は、女性よりも男性の満足度が高くなっている。年代別に見ると、全般に年代が上がるにつれ満足層は増える傾向が見られるが、経済記事は40代で満足度が高い、政治記事は30代で満足度がやや低いなどの特徴もあった。

図 11-2 テレビ・ラジオ欄、地元、社会に関する記事に満足している人の割合
(性・年代別)

(n=3,459)

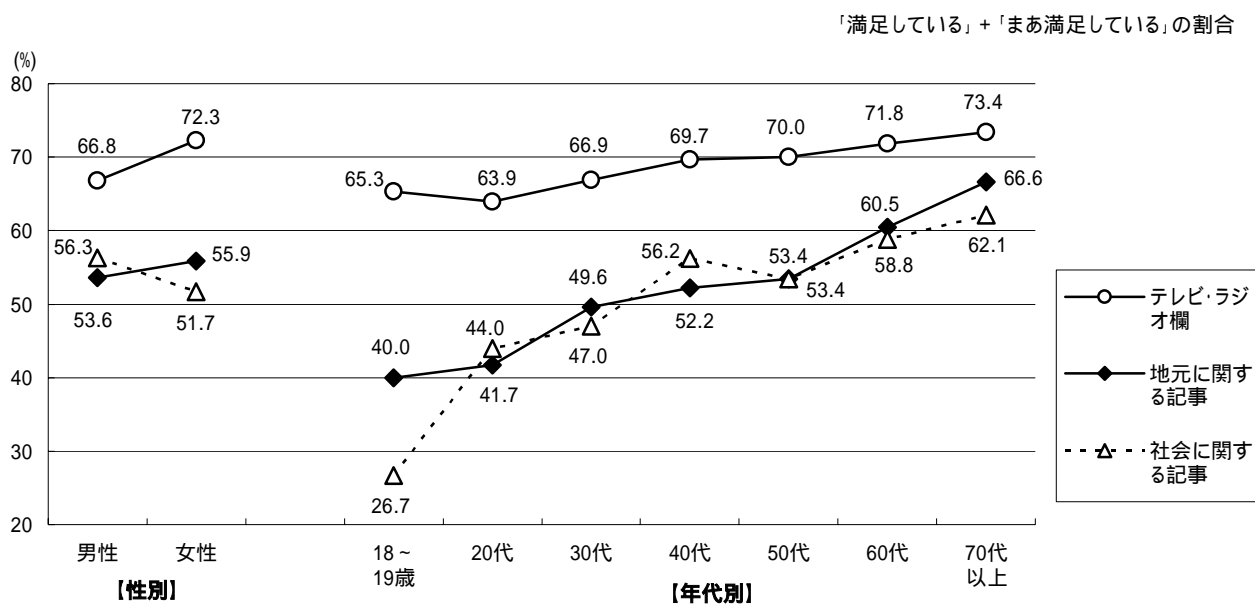
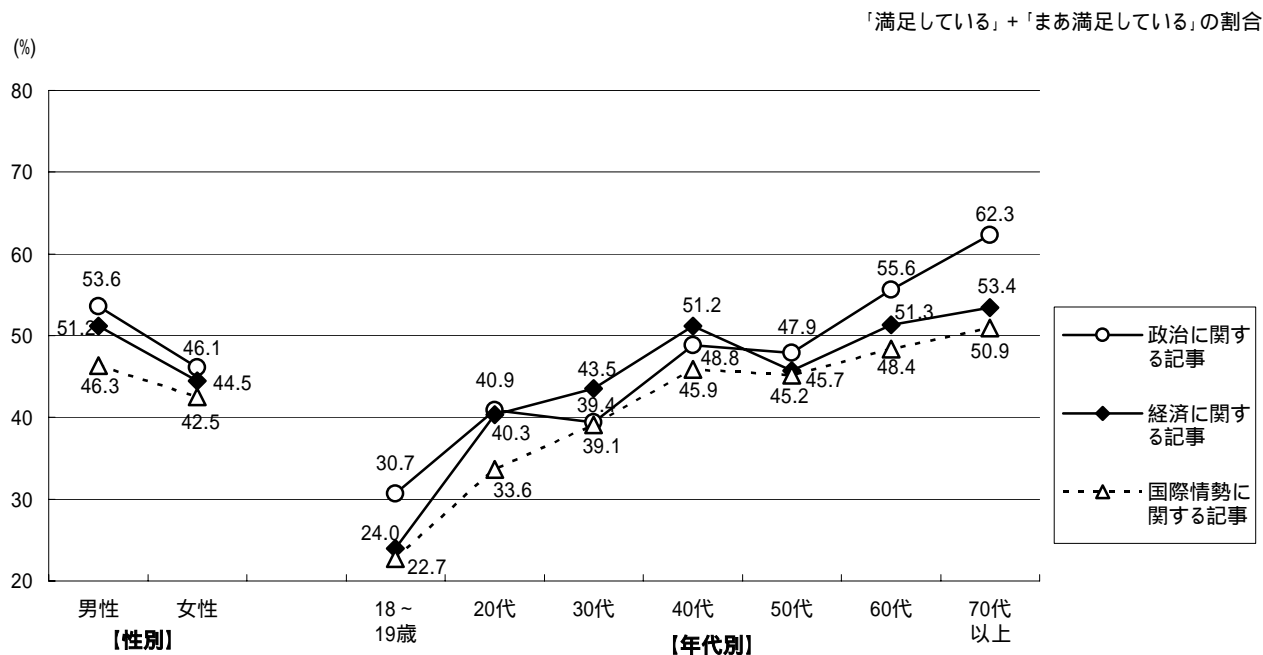


図 11-3 政治、経済、国際情勢に関する記事に満足している人の割合
(性・年代別)

(n=3,459)



12. 新聞全般の満足度は？

- 満足している人は63%、不満な人は6%。高年齢層ほど満足度が高い。 -

- ・新聞全般について、「満足している」は12.7%、「やや満足している」は50.1%であり、この2つを合わせた『満足している(計)』は62.8%と6割を超える。「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満である(計)』は6.2%と少数である。
- ・年代別に見ると、『満足している(計)』は高年齢層ほど多くなり、20代以下では半数(18-19歳 44.0%、20代 45.1%)を下回るのに対し、60代以上では7割(60代 72.0%、70代以上 73.1%)を超えている。一方、『不満である(計)』は年代が低いほど多く、20代以下では1割(同13.3%、同11.5%)を超えるが、それでも圧倒的に『満足している(計)』の方が多くなっている。

図 12-1 新聞全般の満足度

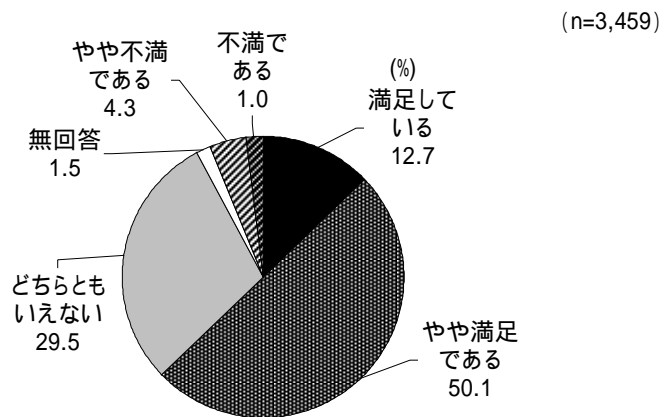
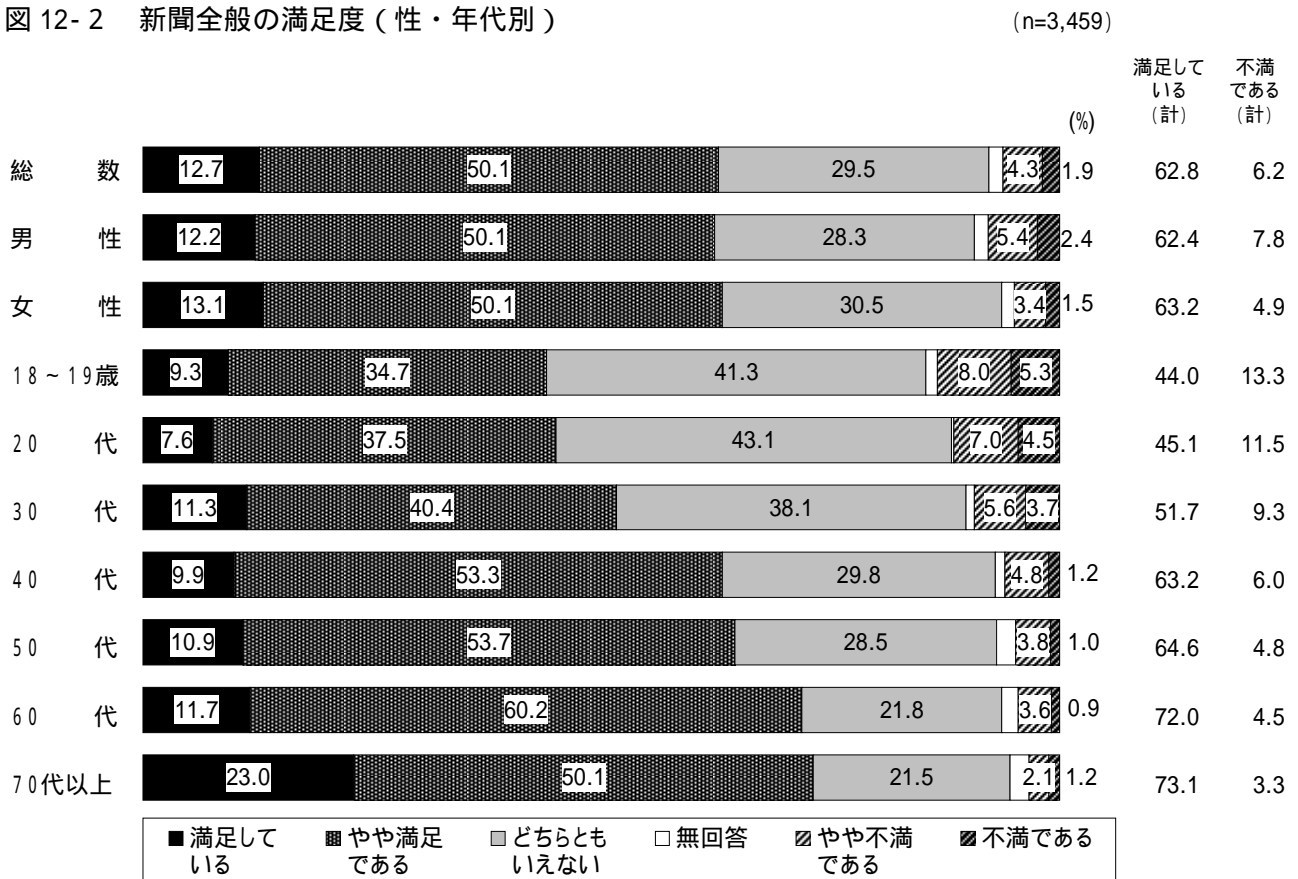


図 12-2 新聞全般の満足度(性・年代別)



生活の中の新聞

13. 新聞を読んでいる人は？（*）

- 夕刊を「読んでいる」31%、夕刊離れがさらに進む。
 昨年度 34%、一昨年度 42% -

- ・朝刊を読んでいる人は82.9%と8割を超え、朝刊が日常生活に浸透していることが分かる。内訳を見ると、「毎日」読んでいる人（61.8%）が6割を超えている。「毎日」読んでいる人は年代が上がるほど増加し、50代では7割台（70.2%）、60代以上では8割（83.1%、83.6%）を超えている。
- ・昨年度調査と比較すると、朝刊を読んでいる人は18 - 19歳（14ポイント）、30代（5ポイント）、40代（6ポイント）で減少している。

図 13-1 新聞（朝刊）の閲読頻度

(n=3,459)

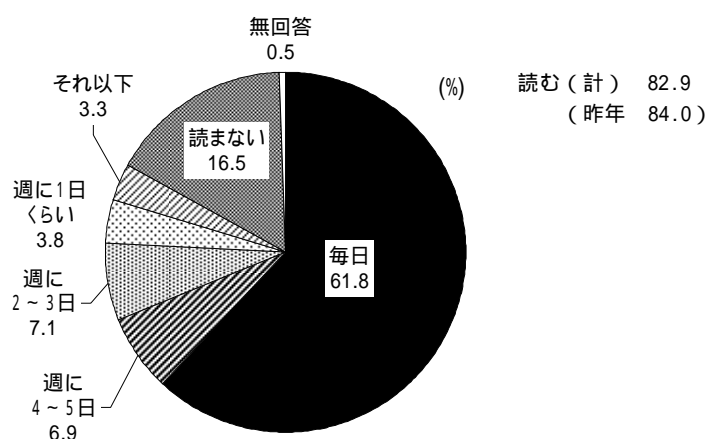


図 13-2 新聞（朝刊）の閲読頻度（読む（計））
 （性・年代別）

(n=3,459)

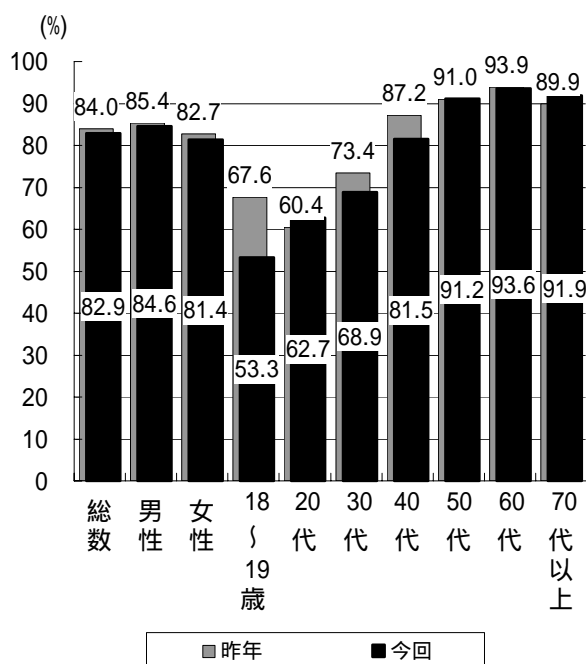
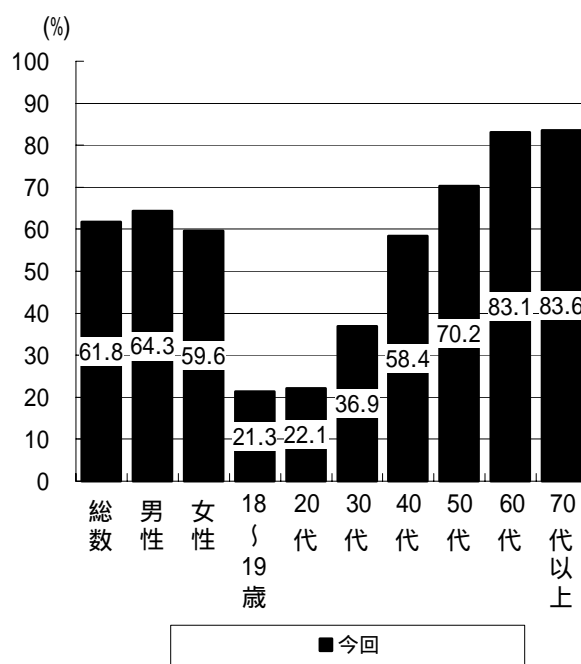


図 13-3 新聞（朝刊）の閲読頻度（毎日）
 （性・年代別）

(n=3,459)



- ・夕刊を読む人は 30.9%で、昨年度の 33.6%、一昨年度の 41.9%よりも減少が進んでいる。そのうち「毎日」読んでいる人は 20.1%と 5 人に 1 人の割合にとどまっている。
- ・夕刊を読む人は 20 代と 50 代を除いてほとんどの年代で昨年度よりも減少しており、とりわけ 18 - 19 歳で減少幅が大きい。

図 13-4 新聞（夕刊）の閲読頻度

(n=3,459)

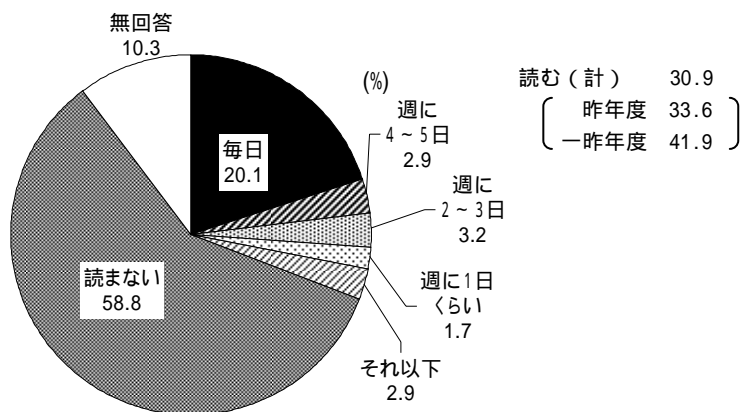


図 13-5 新聞（夕刊）の閲読頻度（読む（計））
（性・年代別） (n=3,459)

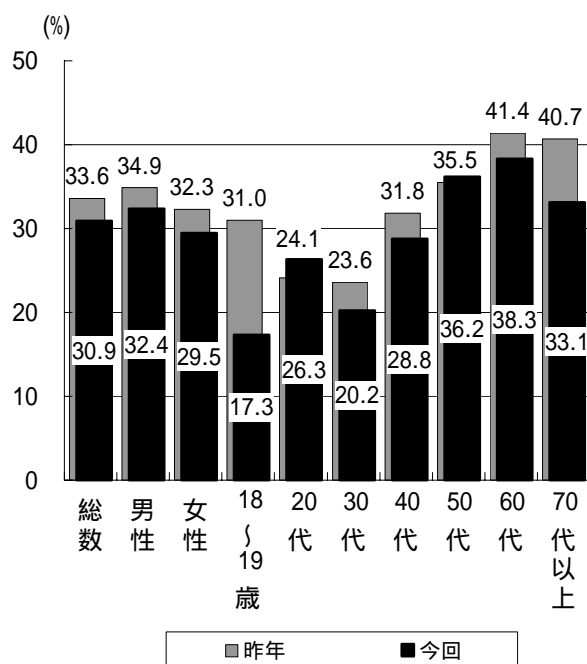
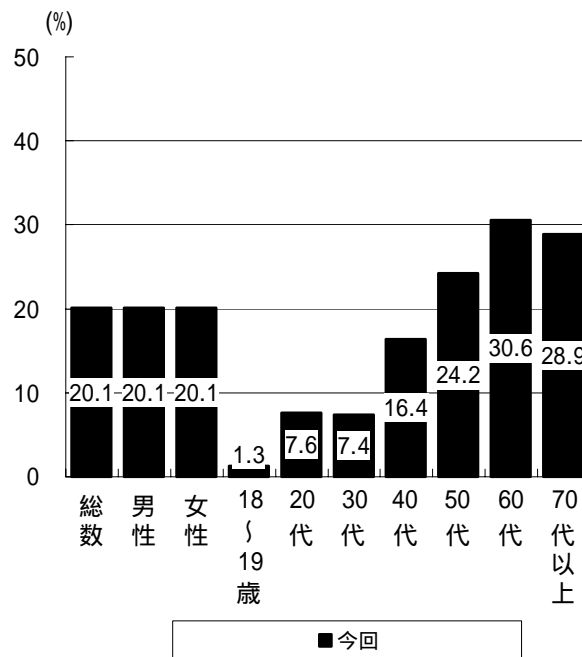


図 13-6 新聞（夕刊）の閲読頻度（毎日）
（性・年代別） (n=3,459)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に)(全体の83.4%)

14. 新聞を読む時間は？ (*)

- 平均時間は27分。若い世代ほど短い。 -

- ・新聞を読む時間は、1日平均で27.4分である。
- ・年代別に見ると、平均時間は60代以上では30分(34.3分、38.8分)を超えているが、30代では16.6分と10分台に減少し、20代14.6分、18~19歳10.0分と年代が下がるほど短くなっている。若い年代での新聞離れが見てとれる。
- ・昨年度調査と比較すると、平均時間は60代以下のいずれの年代でも短くなっていて、最も短くなった30代では2.5分短縮していた。

図 14-1 新聞を読んでいる人 (n=3,459)

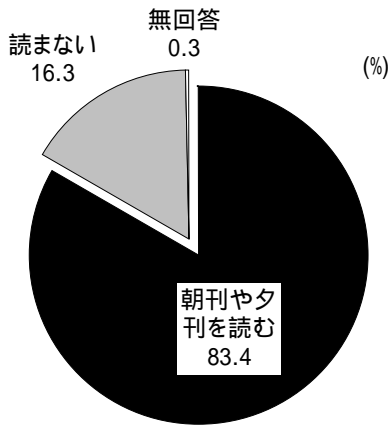


図 14-2 新聞の1日の閲読時間 (n=2,885)

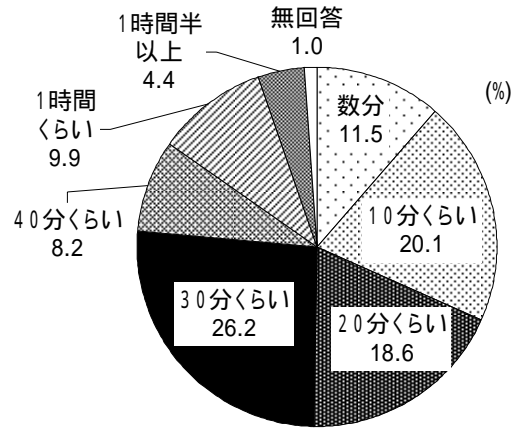
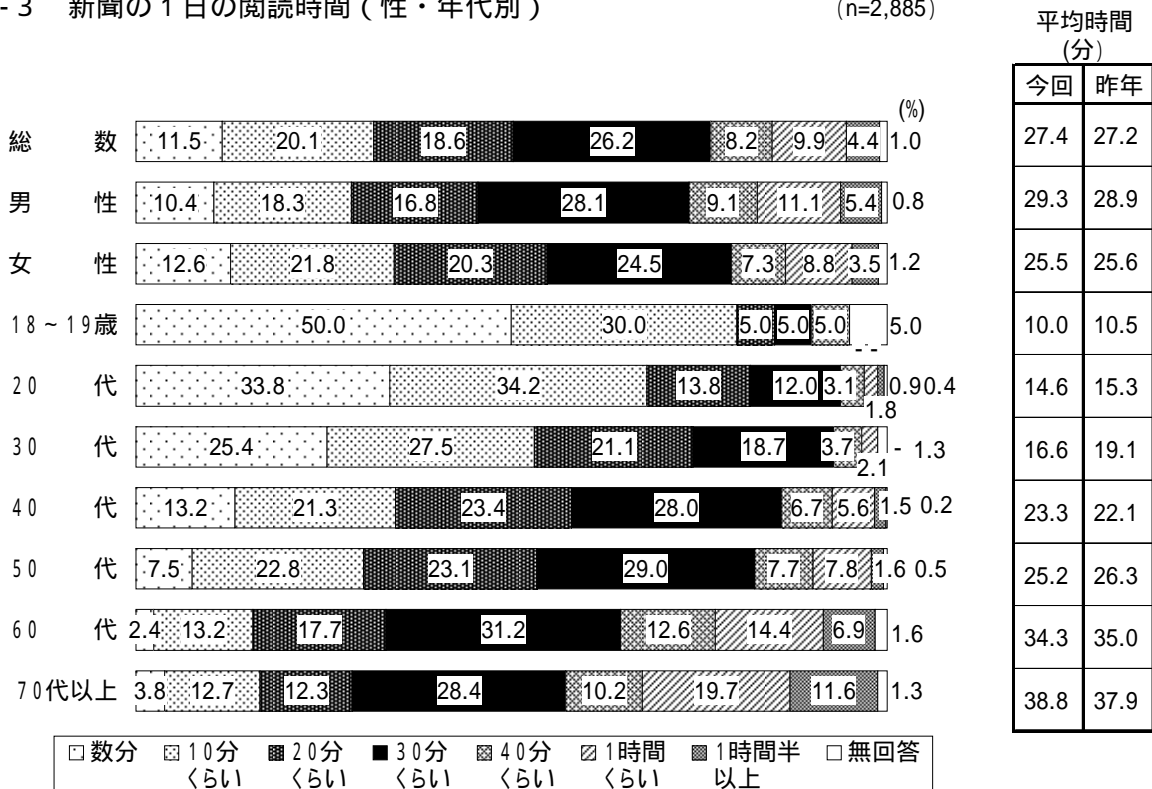


図 14-3 新聞の1日の閲読時間(性・年代別) (n=2,885)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に)(全体の83.4%)

15. 新聞を読む場所は？

- 新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心。
20代、30代は「職場・学校」も2割。 -

- ・新聞を読む場所としては、朝刊は「自宅(午前中)」(72.5%)をあげる人が7割を超え、圧倒的に多い。次いで、「自宅(夕方以降)」(33.2%)、「自宅(午後)」(17.3%)、「職場・学校」(12.2%)が続き、すべての時間帯を合わせると「自宅」をあげた人は90.8%に上る。夕刊も「自宅(夕方以降)」が27.5%で最も多くなっている。
- ・朝刊について年代別に見ると、「自宅(午前中)」は年代が上がるほど増加し、70代以上では9割(90.3%)に達する。「自宅(夕方以降)」は18-19歳で半数近く(47.5%)、20代から50代で3割台後半(36.4~39.5%)と多くなっている。「職場・学校」は20代と30代で2割(21.3%、20.6%)と多くなっている。

図 15-1 新聞を読む場所 (複数回答、n=2,885)

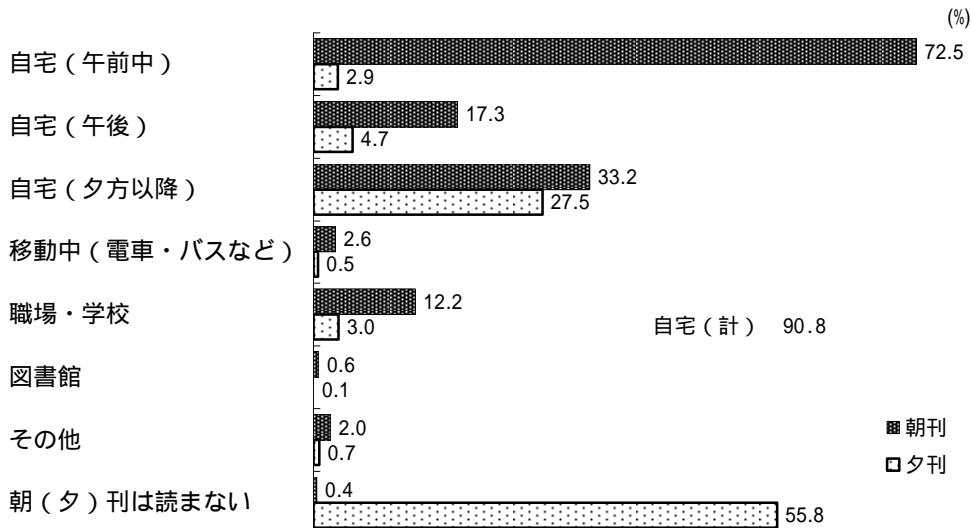
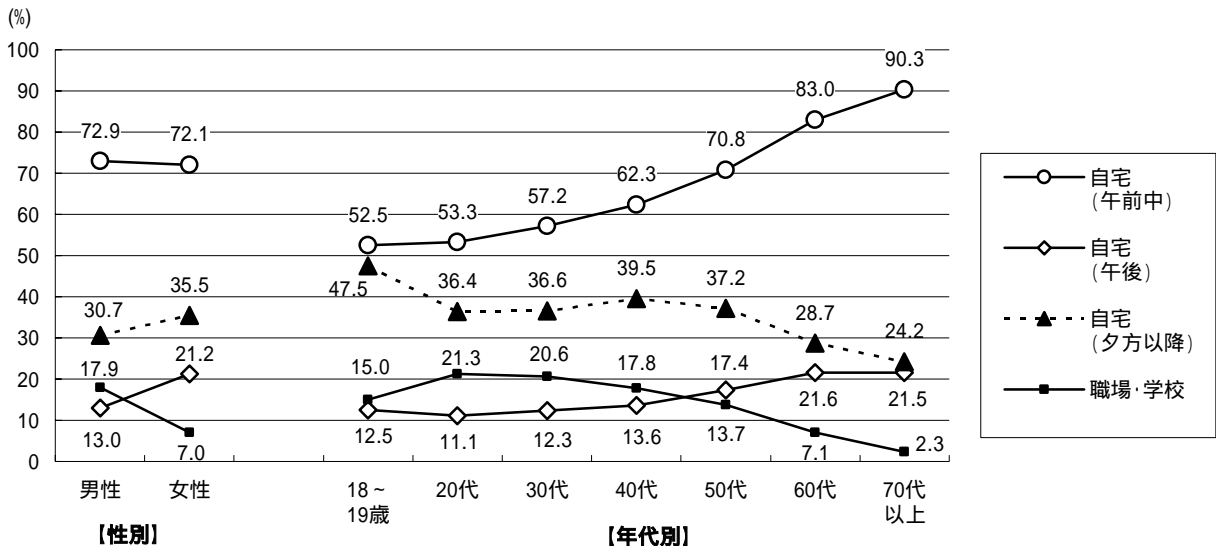


図 15-2 新聞(朝刊)を読む場所(性・年代別) (複数回答、n=2,885)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に)(全体の83.4%)

16. 新聞を読む理由は？ (*)

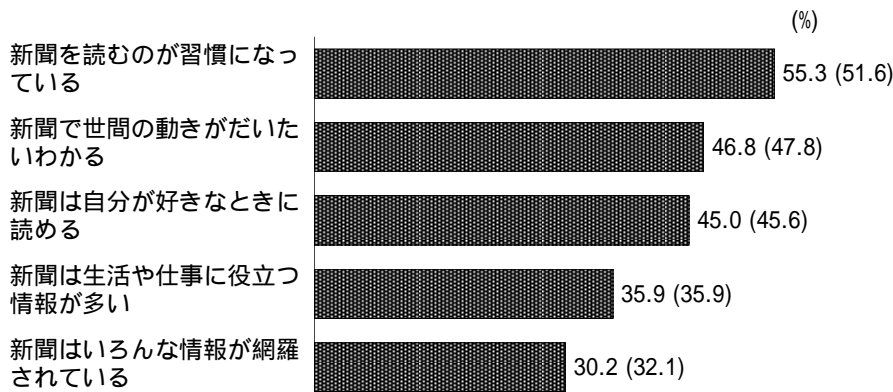
- 新聞を読むことは生活の一部。

1位「習慣になっている」、2位「世間の動きがわかる」 -

- ・新聞を読む理由としては、「新聞を読むのが習慣になっている」(55.3%)をあげる人が半数強と最も多く、新聞を読むことが生活の一部となっていることがうかがえる。次いで、「新聞で世間の動きがだいたいわかる」(46.8%)、「新聞は自分が好きなときに読める」(45.0%)をあげる人が多い。
- ・年代別に見ると、「新聞を読むのが習慣になっている」は年代が上がるほど増加し、70代以上(74.1%)が最多。一方、20代以下では2割(20.0%、24.9%)にとどまる。20代以下では「新聞は自分が好きなときに読める」が新聞を読む理由として最も多くあげられており、新聞の手軽さが多様な生活スタイルをとる若い世代にとって、利点となっていることがうかがえる。

図 16-1 新聞を読む理由

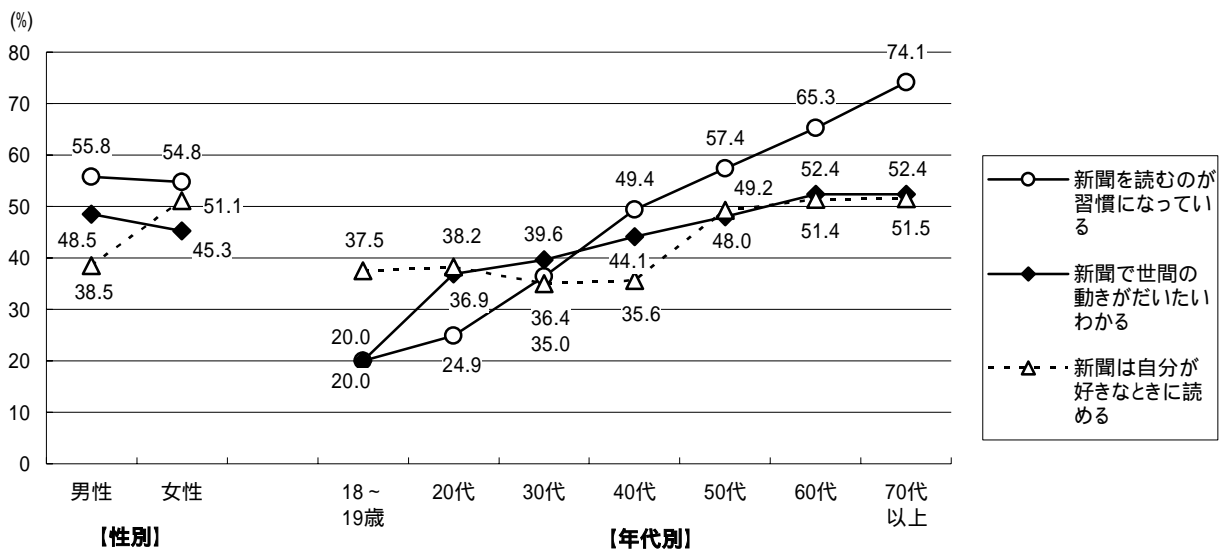
(複数回答、n=2,885)



注：()内は昨年度調査の数値

図 16-2 新聞を読む理由(性・年代別)

(複数回答、n=2,885)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に)(全体の83.4%)

17. よく読む新聞記事は？

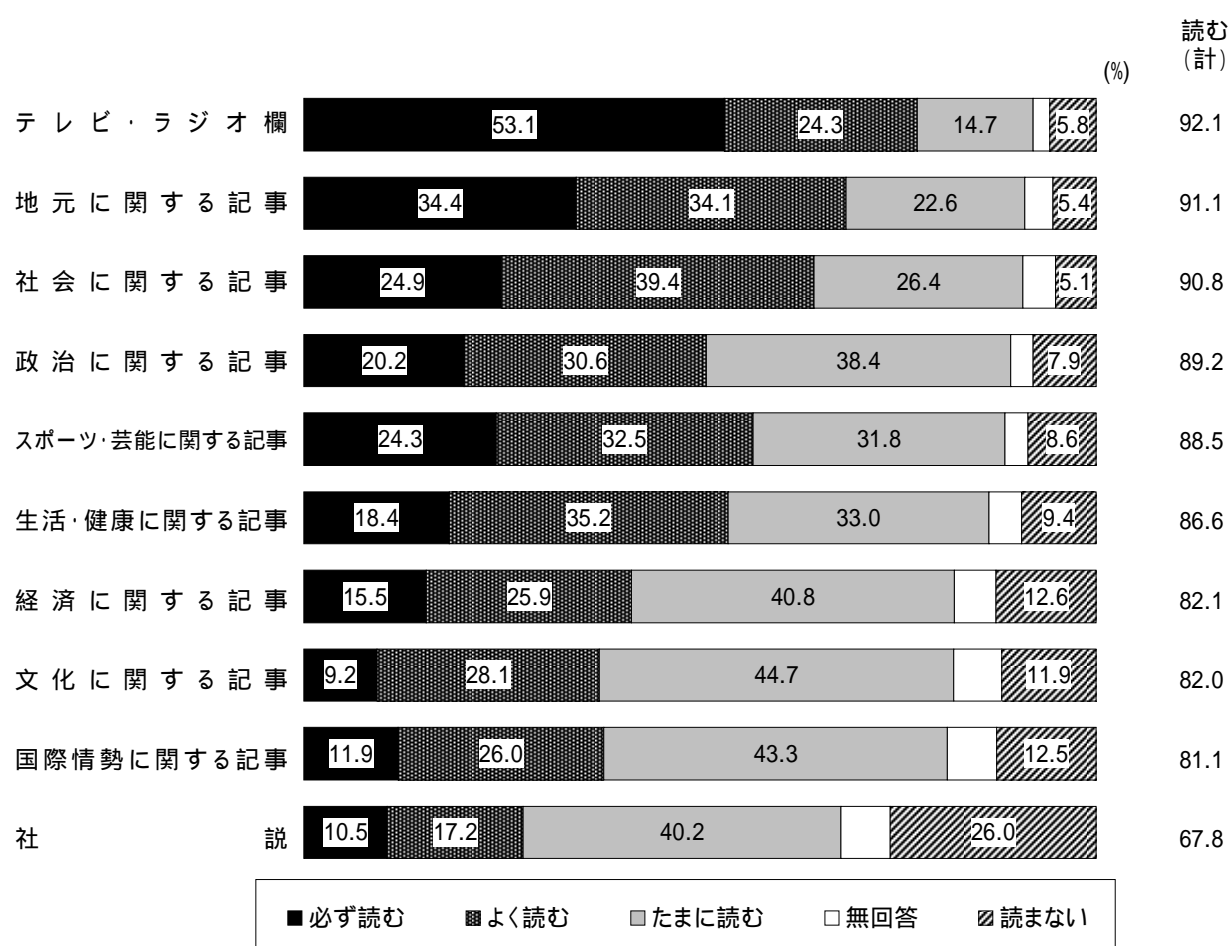
- 身近な記事が人気。1位「ラ・テ欄」、2位「地元記事」、3位「社会記事」 -

- ・よく読む新聞の記事については、「テレビ・ラジオ欄」で「必ず読む」が53.1%と5割を超え、「よく読む」(24.3%)、「たまに読む」(14.7%)を合わせた『読む(計)』が9割(92.1%)を超える。次いで「地元に関する記事」(91.1%)、「社会に関する記事」(90.8%)で『読む(計)』が高くなっており、生活に密着した身近な記事がよく読まれていた。
- ・一方、「社説」は、『読む(計)』が6割台(67.8%)にとどまり、「読まない」が26.0%と最も多くなっている。

『読む(計)』=「必ず読む」+「よく読む」+「たまに読む」

図 17-1 新聞でよく読む記事

(n=2,885)



(朝刊や夕刊を「読まない」と答えた人に)(全体の15.2%)

18. 新聞を読まない理由は？(＊)

- 他1位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(64%)、
2位「新聞を取っていない」(46%)が6ポイント増。 -

- ・新聞を読まない理由としては、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(64.1%)をあげる人が6割を超え、最も多い。次いで、「新聞を取っていないから」(45.5%)と「新聞は高いから(お金がかかるから)」(30.4%)の順になっている。新聞以外のメディアへの接触が新聞離れの大きな要因となっていることがうかがえる。
- ・年代別に見ると、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」が50代と70代以上を除き、最も大きな理由となっているが、特に30代と40代では7割(72.1%、72.5%)を超える。50代と70代以上では「新聞を取っていないから」が最大の理由となっている。また、「新聞は高いから(お金がかかるから)」は、30代と40代(36.4%、37.3%)をピークとする曲線を描いている。
- ・昨年度調査と比較すると、「新聞を取っていないから」が6ポイント増加している。

図 18-1 新聞を読まない人 (n=3,459)

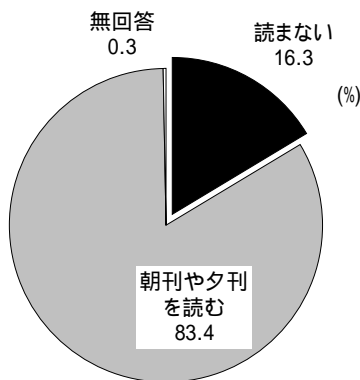
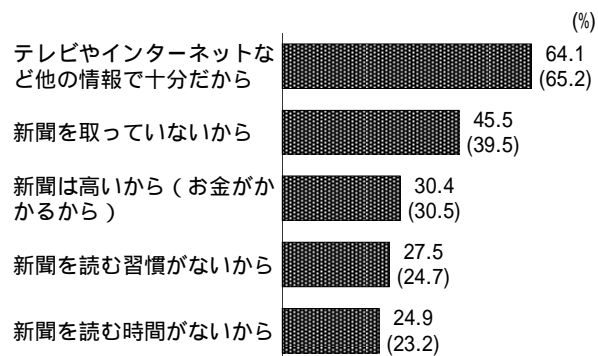


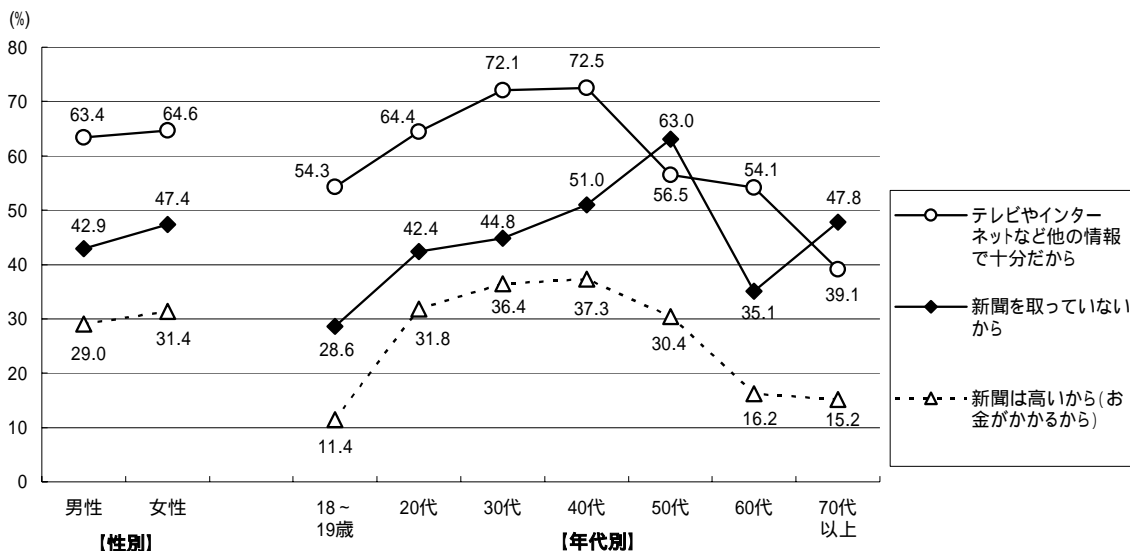
図 18-2 新聞を読まない理由 (複数回答、n=563)



注：()内は昨年度調査の数値

図 18-3 新聞を読まない理由(性・年代別)

(複数回答、n=563)



19. 大きな事件・事故のニュースの入手先は？（*）

- テレビ、新聞が中心で昨年度から変動なし。 -

1位「民放テレビ」(73.7%)、2位「新聞」(65.2%)、3位「NHK テレビ」(64.5%)

- ・大きな事件・事故の発生や、政治・経済の大きなニュースの情報を得ている媒体については、「民放テレビ」(73.7%)をあげる人が最も多い。次いで「新聞」(65.2%)、「NHK テレビ」(64.5%)となっており、テレビ、新聞が中心であることが分かる。
- ・「民放テレビ」は40代以下では他のメディアを大きく上回り、20代から40代では8割前後(77.6~81.2%)となっている。50代では「民放テレビ」「新聞」「NHK テレビ」が7割台で並び、これらの差が小さい。「NHK テレビ」と「新聞」は共に年代が上がるほど増加する傾向にあり、60代以上では7~8割であるのに対し、20代以下では2~4割と、年代による差が大きい。「インターネット(パソコン)」も年代差が大きい、30代(48.5%)をピークに、年代が上がるほど少なくなっており、70代以上では1割(4.5%)を大きく下回っている。
- ・昨年度調査と比較すると、1位の「民放テレビ」は変わらず、「新聞」と「NHK テレビ」の順位は入れ替わっているものの、比率の増減は少ない。

図 19-1 大きな事件・事故のニュースの入手先 (複数回答、n=3,459)

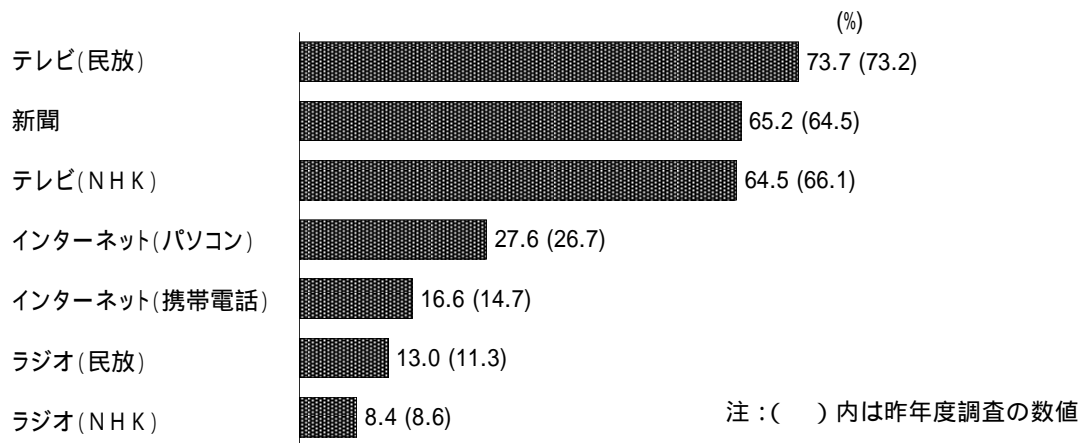
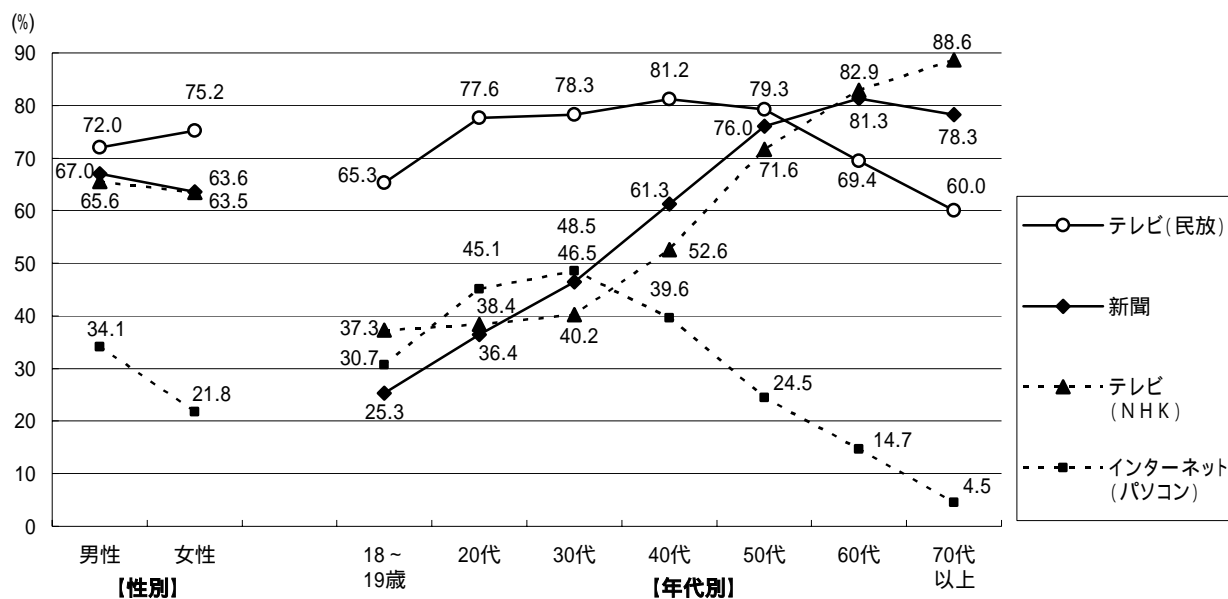


図 19-2 大きな事件・事故のニュースの入手先(性・年代別)

(複数回答、n=3,459)



20. 戸別配達をどう思う？（*）

- 日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」80%。ただし、微減傾向。 -

- ・戸別配達については、「ぜひ続けてほしい」は62.3%、「できれば続けてほしい」は17.2%であり、両者をあわせた『続けてほしい(計)』は79.5%である。毎日決まった時間に自宅に直接新聞が届くという戸別配達へのニーズは高い。
- ・年代別に見ると、『続けてほしい(計)』は年代が高いほど多くなり、18 - 19歳では5割台（56.0%）であるが、60代以上では9割（90.7%、91.1%）を超える。
- ・過去の調査と比較すると、『続けてほしい(計)』の割合は圧倒的多数を占めるが、減少傾向にある。年代別に見ると、70代以上を除くいずれの年代でも減少しており、特に18 - 19歳で減少が大きい。

『続けてほしい(計)』 = 「ぜひ続けてほしい」 + 「できれば続けてほしい」

図 20-1 戸別配達の存続

(n=3,459)

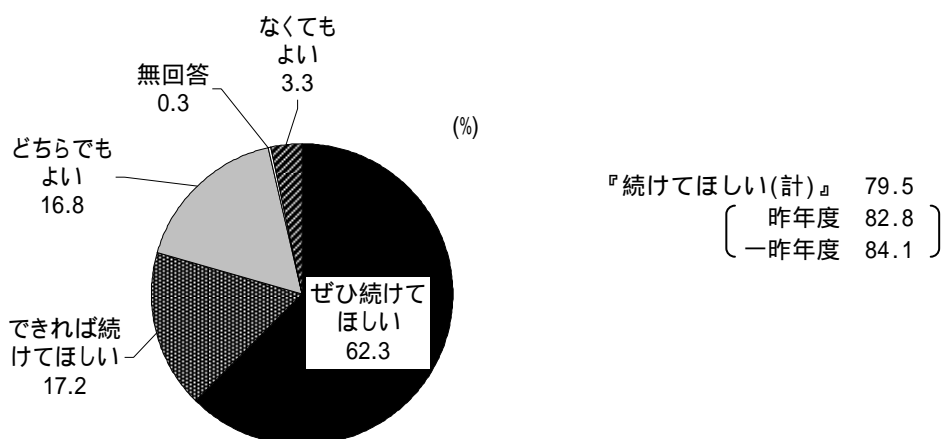
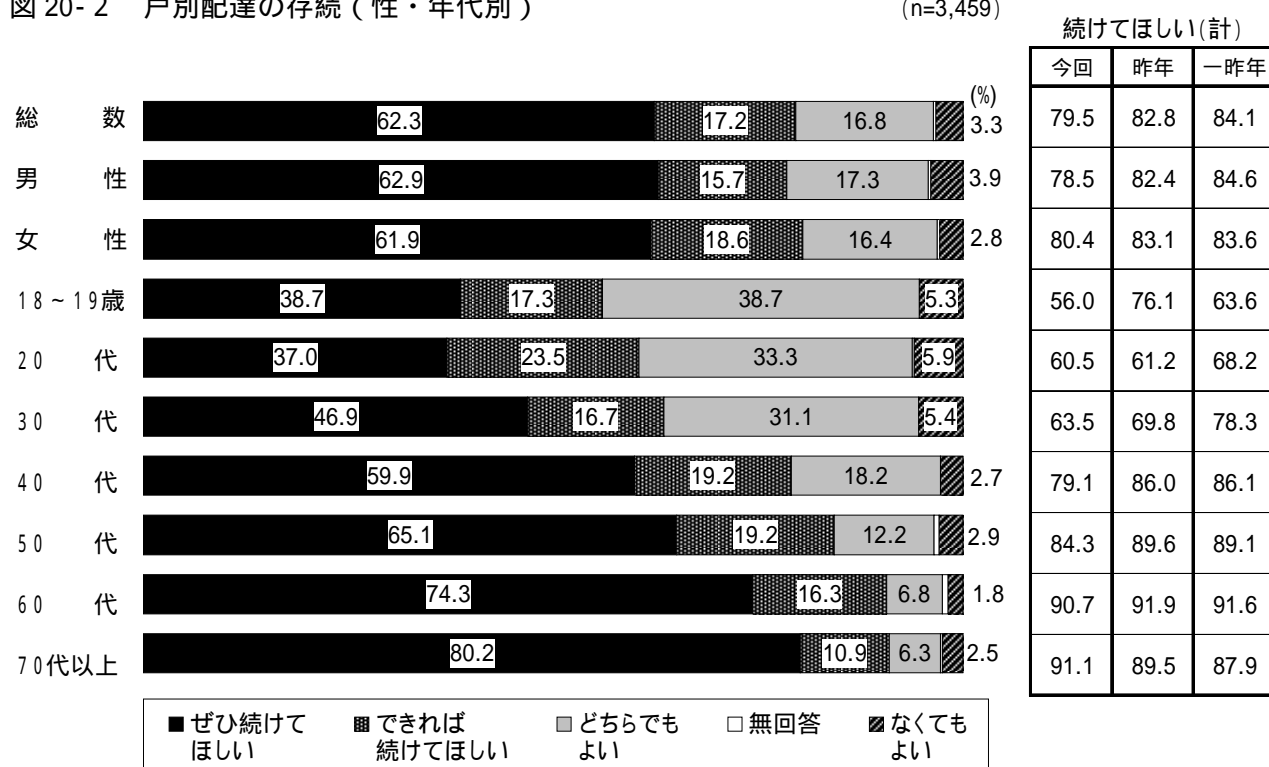


図 20-2 戸別配達の存続（性・年代別）

(n=3,459)



21. 夕刊の発行をどう思う？（*）

- 「続けてほしい」人は21%で、一昨年度から7ポイント減。 -

- ・夕刊の発行については、「ぜひ続けてほしい」は9.7%、「できれば続けてほしい」は11.0%であり、両者を合わせた『続けてほしい(計)』は20.8%である。一方、「なくてもよい」は33.5%である。夕刊の発行を続けてほしいという層は2割にとどまり、夕刊の発行への要望は強いとは言えない。
- ・年代別に見ると、夕刊の発行を続けてほしい人は、最も多い60代であっても3割(27.0%)を下回る。40代以下では2割(11.9%~18.8%)を切っている。どの世代においても、夕刊はなくてもよいと考える人が多い傾向にあるが、特にインターネットなどの利用率が高い若い世代で夕刊離れが大きい。
- ・過去の調査と比較すると、夕刊の発行への要望は低下し続けており、『続けてほしい(計)』の割合は一昨年度から7ポイントも減少している。年代別に見ても、20代を除くいずれの年代でも減少しており、昨年度から今回にかけては、70代以上での減少が最も大きかった。

『続けてほしい(計)』 = 「ぜひ続けてほしい」 + 「できれば続けてほしい」

図 21-1 夕刊発行の存続

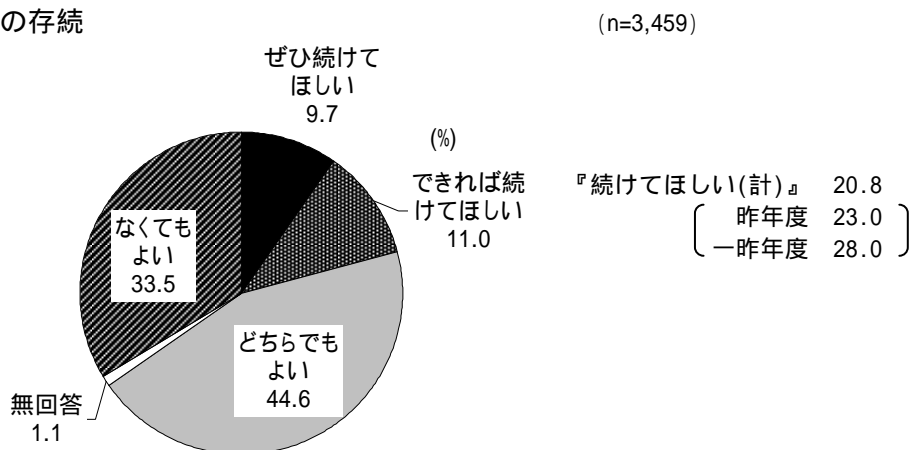
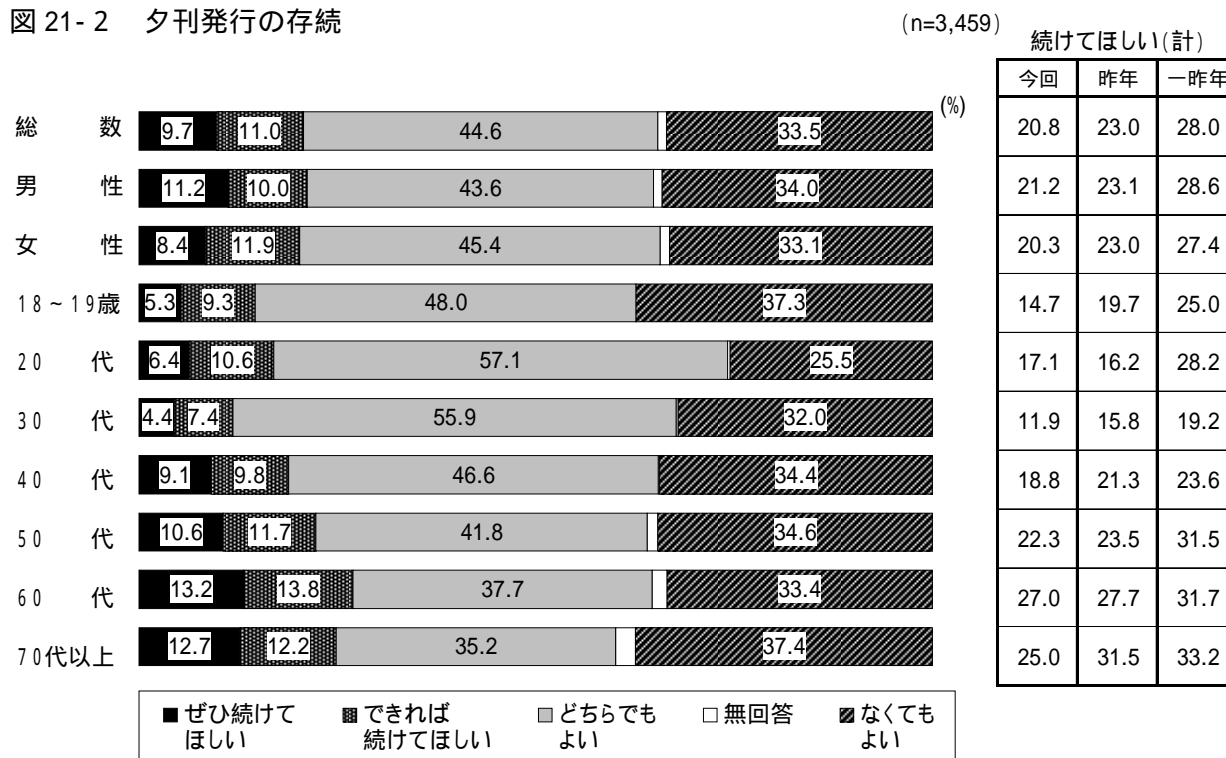


図 21-2 夕刊発行の存続



22. 月ぎめ新聞の購読状況は？（*）

- 85%が購読。20代では購読69%で、昨年度より6ポイント減。 -

- ・ 自宅で月ぎめで新聞を購読している人は84.5%と8割を超えている。新聞の種類を見ると、「全国紙」を購読している人が58.8%、「県紙・地方紙」を購読している人が34.3%、「ブロック3紙」を購読している人が13.2%となっている。また、全国紙を購読している人のうち、「2紙以上」の購読は7.0%と少なく、ほとんどが「1紙のみ」(89.4%)の購読である。
- ・ 年代別で見ると、月ぎめ新聞を購読している人は、20代と30代では7割弱(68.6%、69.4%)とやや少なく、40代で8割(81.2%)、50代以上で9割(91.8~93.6%)を超えている。
- ・ 昨年度調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は若い世代で減っており、18-19歳は14.1ポイント、20代は7ポイント減少している。また、40代でも6ポイント減少した。

図 22-1 月ぎめでとっている新聞の有無 (n=3,459)

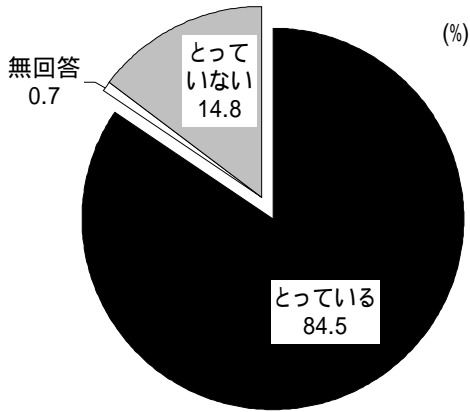


図 22-2 月ぎめでとっている新聞の種類 (複数回答、n=2,923)

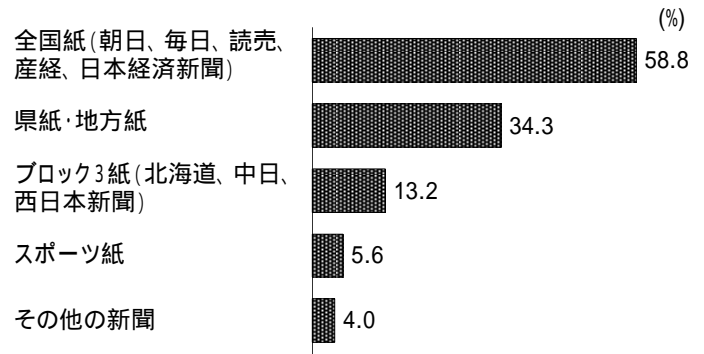


図 22-3 全国紙を何紙とっているか (n=1,719)

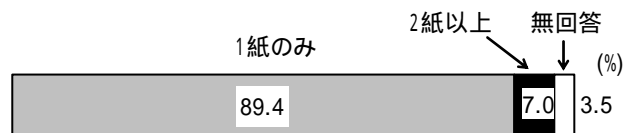
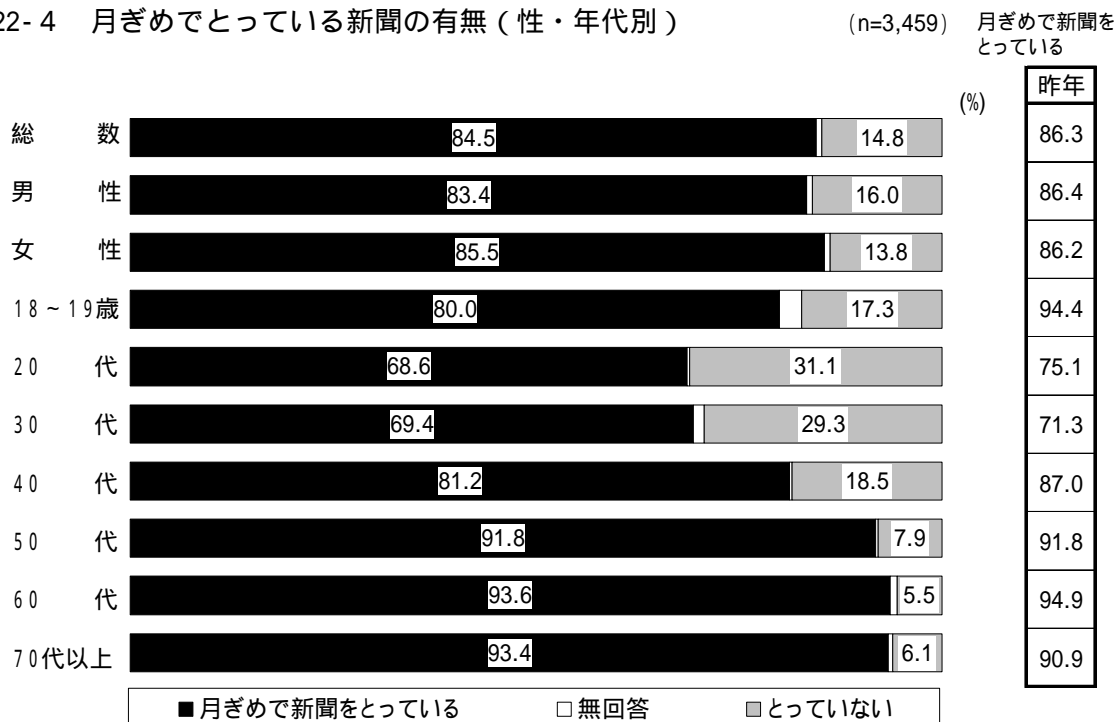


図 22-4 月ぎめでとっている新聞の有無(性・年代別) (n=3,459)



23. 新聞の購読料をどう思う? (*)

- 「高い」とする人は54%。若い世代で負担感が大きい。 -

- ・新聞の1ヶ月の購読料(朝刊と夕刊のセットでおよそ4,000円)について、「かなり高い」は10.9%、「少し高い」は43.0%の回答であった。両者を合わせた『高い(計)』は53.9%となり、半数以上の人々が購読料を負担に感じていることが分かる。「妥当である」は42.6%、「少し安い」と「かなり安い」を合わせた『安い(計)』は2.3%とごく少数にとどまっている。
- ・年代別に見ると、『高い(計)』は40代以下では6割(60.6~66.7%)を超えている。一方、60代以上では、『高い(計)』(46.3%、45.0%)を押さえ、「妥当である」とする人が半数前後(48.7%、51.1%)を占め、新聞に金額相応の価値を置いていることがうかがえる。
- ・過去の調査と比較すると、『高い(計)』の割合は、昨年5ポイント減少したが、今回は変化が見られなかった。

『高い(計)』 = 「かなり高い」 + 「少し高い」
 『安い(計)』 = 「少し安い」 + 「かなり安い」

図 23-1 新聞の購読料

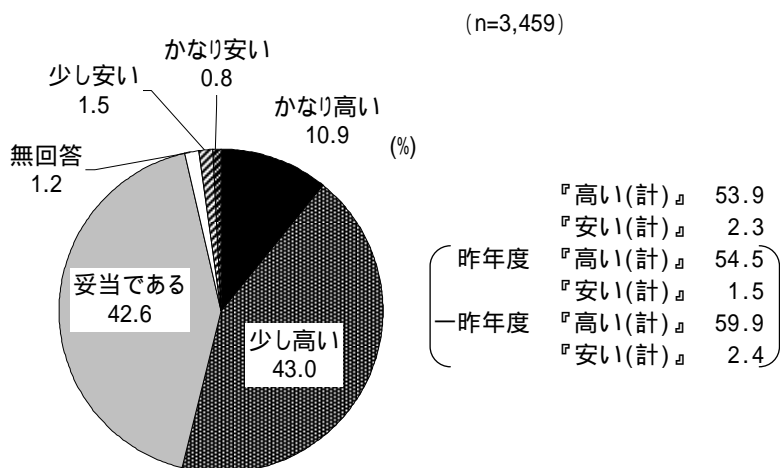
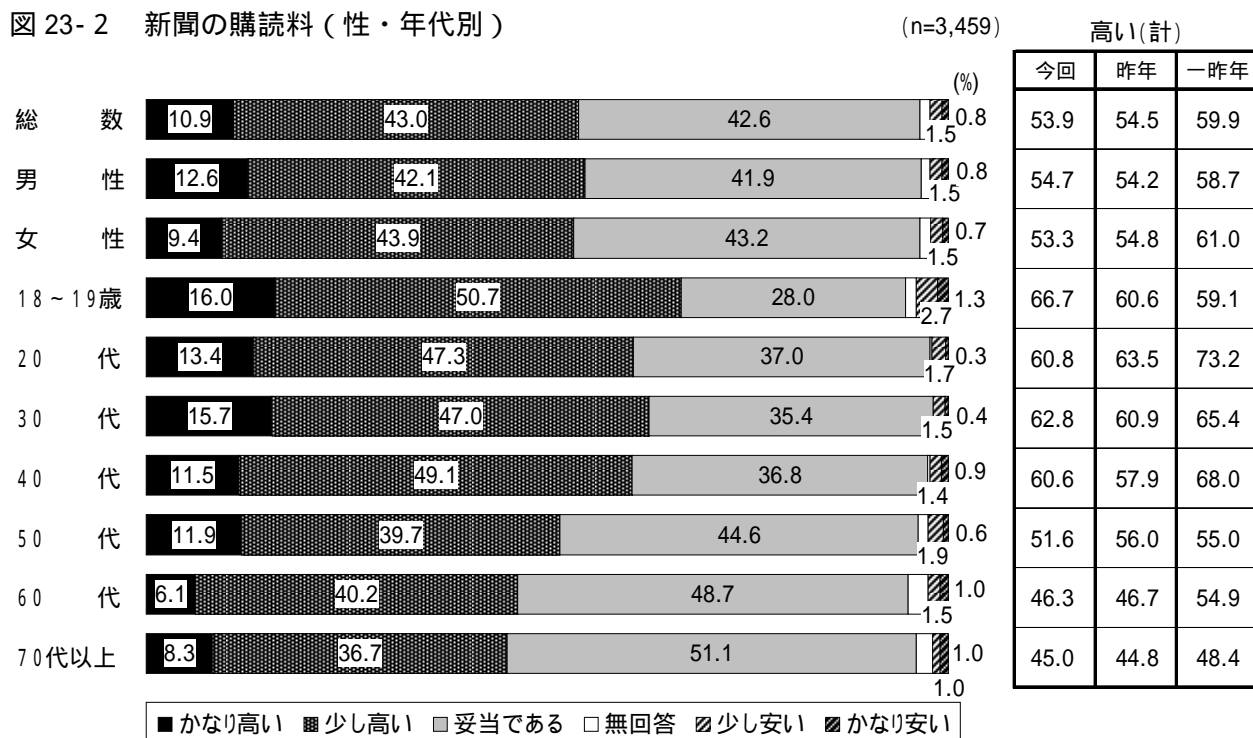


図 23-2 新聞の購読料(性・年代別)



24. 通信社の役割を知っている？（*）

- 特に若い世代で「役割を知っている人」は少ない。 -
「知っている」46.3%、「知らない」52.5%

- ・通信社が新聞社や放送局、インターネットサイトなどにニュースを配信していることを「知っている」人は46.3%、「知らない」人は52.5%であった。
- ・性別で見ると、「知っている」人は、女性（40.4%）よりも男性（52.8%）に多い。
- ・年代別に見ると、通信社の役割を「知っている人」は、18～19歳では30.7%と少なく、年代が上がると共に増加し、40代で57.5%と最も多くなり、40代以降は年代が上がるにつれて減少している。
- ・過去の調査と比較しても、「知っている」人の割合はほとんど変わらない。年代別に昨年度調査と比較すると、40代以下では「知っている」が増加し、60代以上では減少している。

図 24-1 通信社の役割の認知

(n=3,459)

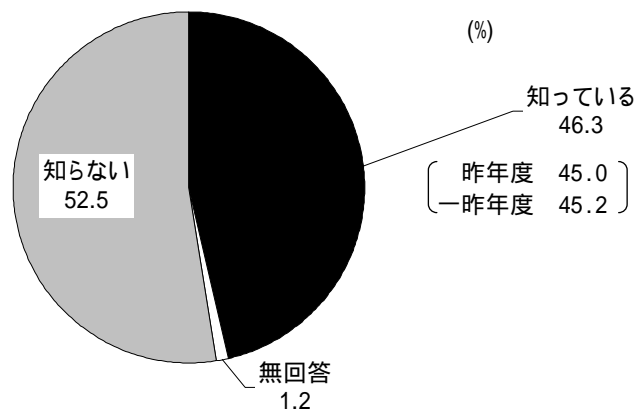
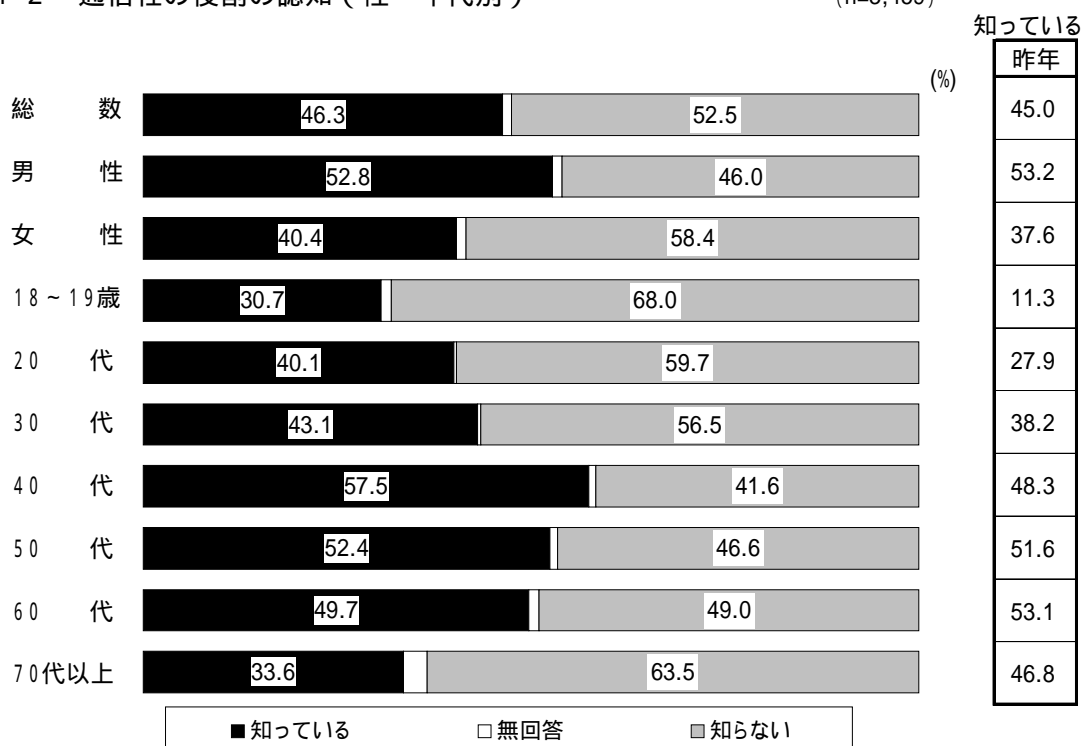


図 24-2 通信社の役割の認知（性・年代別）

(n=3,459)



25. 見たり聞いたことがある通信社は？（*）

- 1位「共同通信社」（69%）、2位「ロイター通信」（68%）で順位変わらず。 -
- ・見たり聞いたことがある通信社の名前をひとつでもあげた人は79.4%である。最も知名度が高いのは「共同通信社」で69.1%の人があげている。次いで「ロイター通信」が68.2%、「AP通信」が51.5%、「新華社」が42.4%、「時事通信社」が42.0%となっている。
- ・年代別に見ると、40代と60代以上では「共同通信社」の知名度が最も高いが、30代以下と50代では「ロイター通信」が最も高い。
- ・過去の調査と比較しても、順位は変わらないが、上位3位の通信社の比率は昨年度調査からやや減少している。

図 25-1 知っている通信社の有無 (n=3,459)

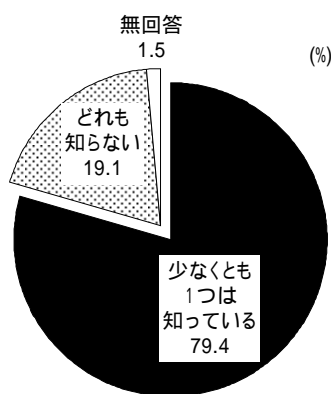
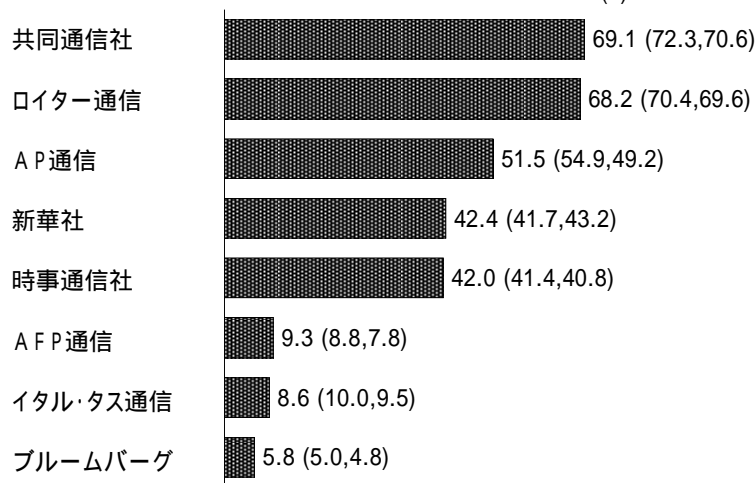


図 25-2 知っている通信社 (複数回答、n=3,459) (%)



注：()内は左から昨年度調査、一昨年度調査の

表 25-1 知っている通信社（性・年代別）

(複数回答、n=3,459)

	1位	2位	3位	4位	5位
総数	共同通信社 69.1	ロイター通信 68.2	AP通信 51.5	新華社 42.4	時事通信社 42.0
男性	共同通信社 74.8	ロイター通信 71.9	AP通信 56.1	時事通信社 49.9	新華社 49.7
女性	ロイター通信 64.9	共同通信社 63.9	AP通信 47.4	新華社 35.9	時事通信社 35.0
18-19歳	ロイター通信 45.3	AP通信 40.0	共同通信社 33.3	新華社 18.7	時事通信社 14.7
20代	ロイター通信 67.8	共同通信社 60.5	AP通信 52.1	時事通信社 35.0	新華社 27.5
30代	ロイター通信 76.9	共同通信社 71.7	AP通信 60.6	時事通信社 42.6	新華社 41.3
40代	共同通信社 78.1	ロイター通信 77.6	AP通信 64.0	新華社 47.8	時事通信社 46.7
50代	ロイター通信 75.6	共同通信社 74.0	AP通信 56.7	新華社 48.7	時事通信社 45.5
60代	共同通信社 74.6	ロイター通信 68.7	新華社 49.9	AP通信 47.6	時事通信社 44.7
70代以上	共同通信社 56.2	ロイター通信 46.4	時事通信社 38.0	新華社 35.2	AP通信 31.2

26. インターネットのニュースをどの程度見る？（*）

- 「インターネットニュースを毎日見る」20代の半数以上。
30代以下では朝刊の閲読率を上回る。 -

- ・インターネットのニュースを閲覧している人は57.1%と半数を超えている。内訳を見ると、「毎日」見ている人（25.5%）が4人に1人の割合になっている。
- ・年代別に見ると、インターネットのニュースを閲覧している人は若年層に多く、特に30代以下では8割(85.3~92.4%)を超え、新聞朝刊の閲読率を上回った。インターネットのニュースを「毎日」見ている人は20代では5割（54.3%）を超えている。

図 26-1 インターネットニュースの閲覧状況

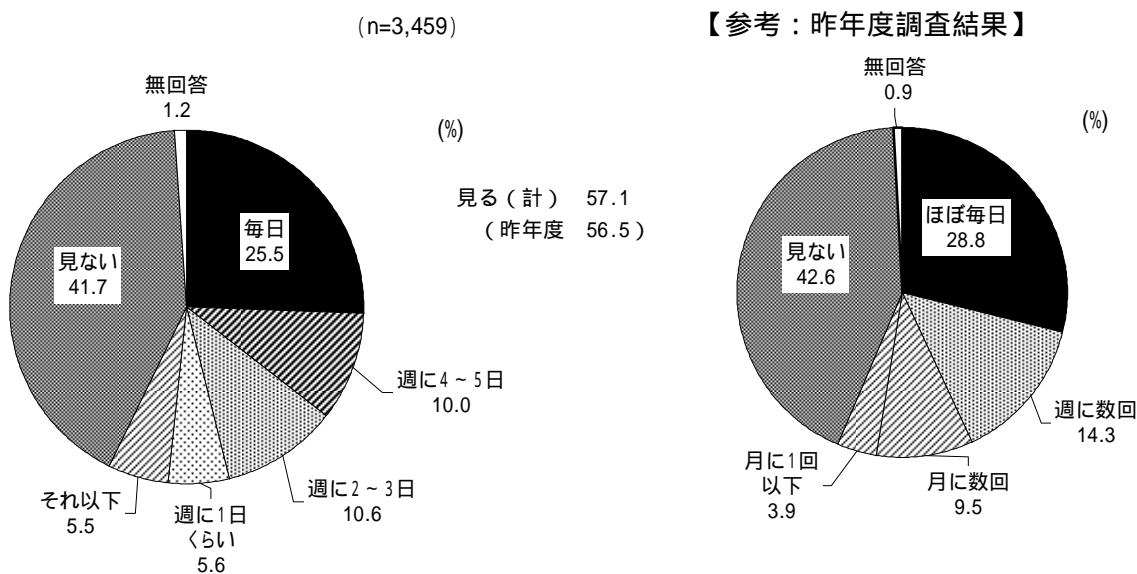
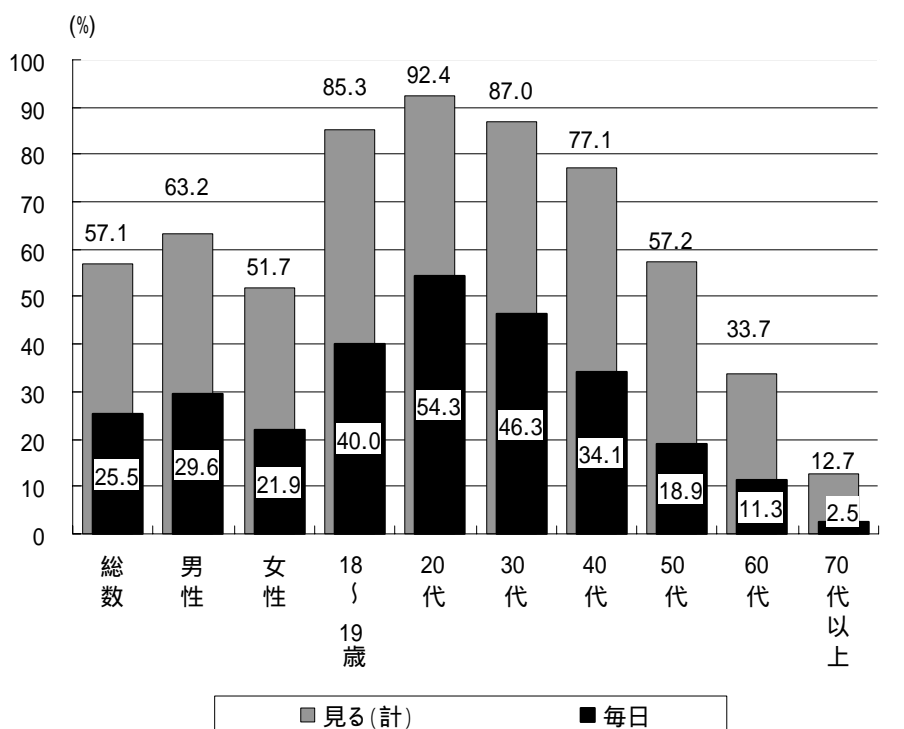


図 26-2 インターネットニュースの閲覧状況（性・年代別）



(インターネットニュースを見ている人に)(全体の57.1%)

27. よく見るインターネットニュースの記事は？

- 1位「スポーツ・芸能に関する記事」(73%)
- 2位「社会に関する記事」(51%) -

- ・よく見るインターネットニュースの記事としては、「スポーツ・芸能に関する記事」(72.9%)をあげる人が7割を超え、最も多く、次いで、「社会に関する記事」(51.2%)をあげる人が半数を超えている。
- ・性別に見ると、「政治に関する記事」「経済に関する記事」は男性の方が多く、「生活・健康に関する記事」は女性の方が多くなっている。
- ・年代別に見ると、「スポーツ・芸能に関する記事」は40代以下で8割前後(77.1~80.4%)と多くなっている。

図 27-1 インターネットニュースでよく読む記事 (複数回答、n=1,975)

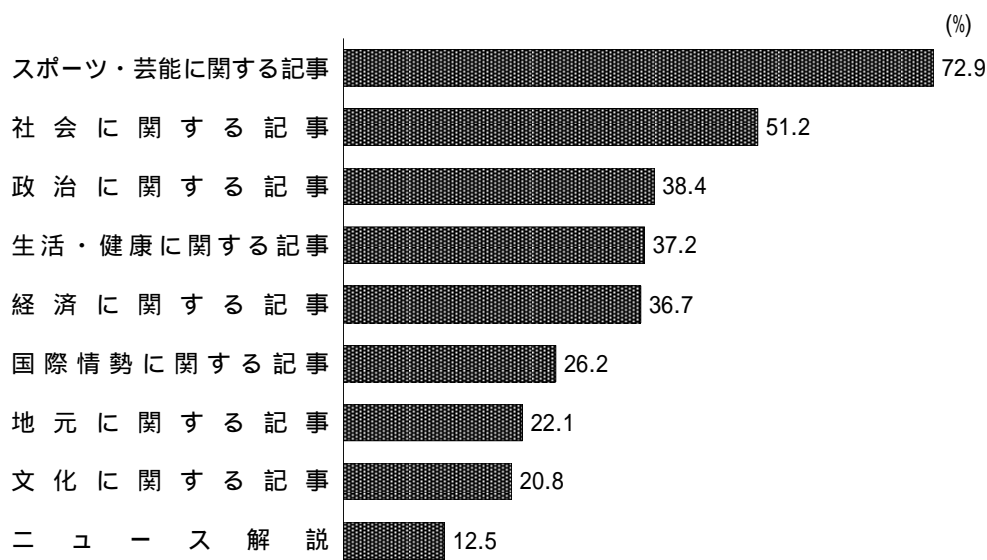
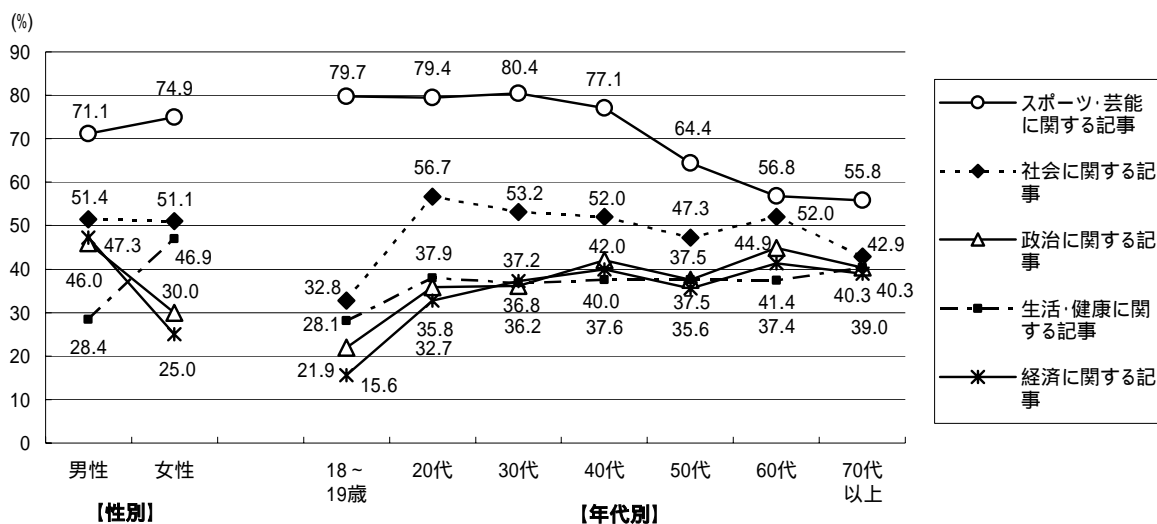


図 27-2 インターネットニュースでよく読む記事(性・年代別) (複数回答、n=1,975)



(インターネットニュースを見ている人に)(全体の57.1%)

28. インターネットニュースを見るサイトは？

- ポータルサイトが85%、新聞社の公式サイトは25% -

- ・インターネットニュースを見るサイトを質問したところ、「ポータルサイト(Yahoo!、Googleなど)」(85.3%)が突出して最も多かった。「新聞社・通信社の公式サイト」(24.6%)、「テレビ放送局の公式サイト」(9.1%)は大きく水をあけられているようだ。
- ・年代別に見ると、「ポータルサイト(Yahoo!、Googleなど)」はいずれの年代においても最も多く、40代以下では9割前後(87.8~90.6%)で、40代以上では年代の上昇と共に少なくなるが、70代以上でも半数(57.1%)を超える。一方、「新聞社・通信社の公式サイト」「テレビ放送局の公式サイト」は年代が上がるほど多くなる傾向が見られる。

図 28-1 インターネットニュースを見るサイト (n=1,975)

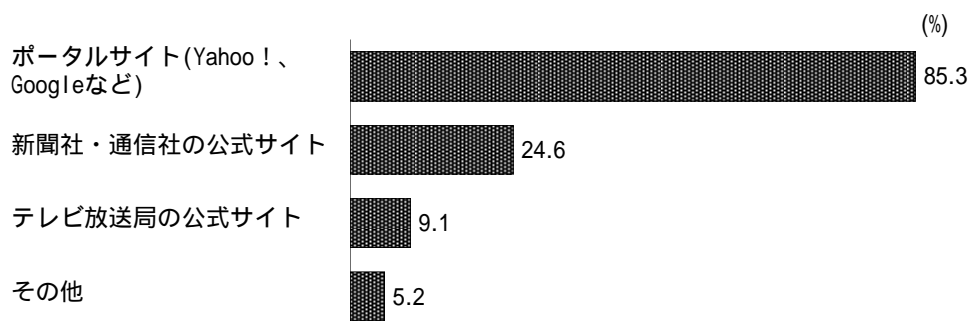
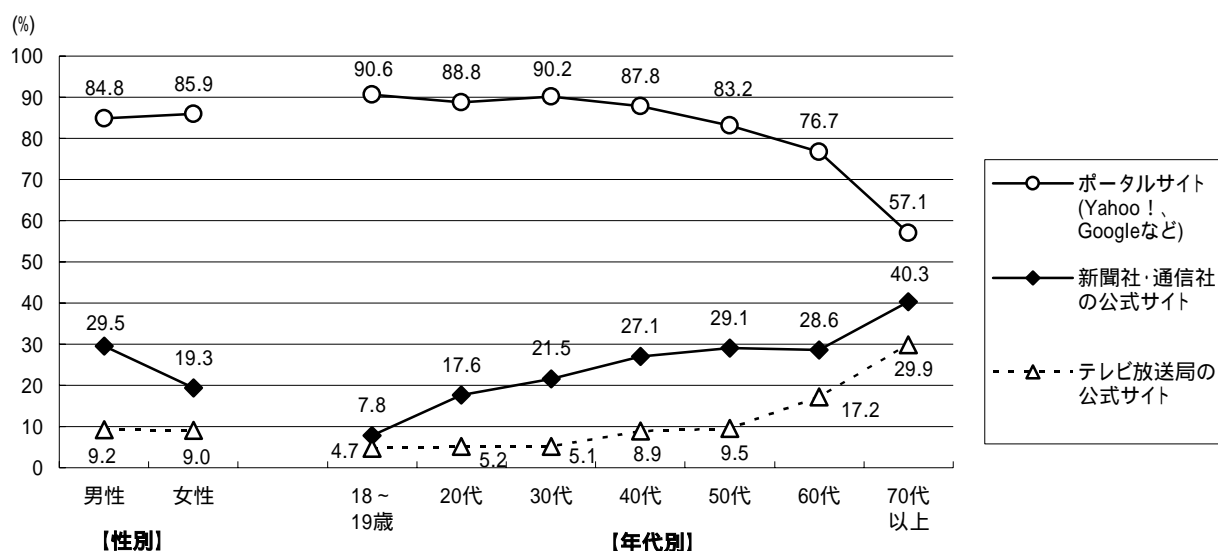


図 28-2 インターネットニュースを見るサイト(性・年代別) (n=1,975)



29. 将来の新聞の役割についてどう思う？（*）

- 「新聞の役割が少なくなってくる」が6ポイント増。
新聞の役割減少派 38.7%、持続派 43.7%

- ・将来の新聞について、「A：インターネットなどの普及により新聞の役割が少なくなってくる」と考える役割減少派は 38.7%、「B：今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」と考える役割持続派は 43.7%と、役割持続派の方が多くなっている。
- ・年代別に見ると、役割持続派は年代が上がるほど多くなり、60代以上では6割近く（58.8%、58.5%）を占める。一方、30代以下では役割減少派が過半数（55.9～68.0%）と多く、持続派（16.0～29.3%）を上回っており、若い世代で将来、新聞がインターネットなどの影響を受けると見ている人が多いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、役割持続派の減少がすべての年代で生じており、今年度調査から40代でも役割減少派が役割持続派を逆転した。

役割減少派：「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」

役割持続派：「どちらかといえばBに近い」+「Bに近い」

図 29-1 将来の新聞についての意見

(n=3,459)

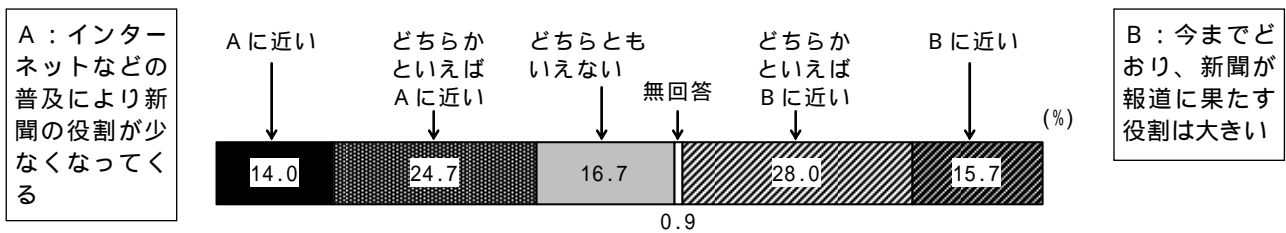
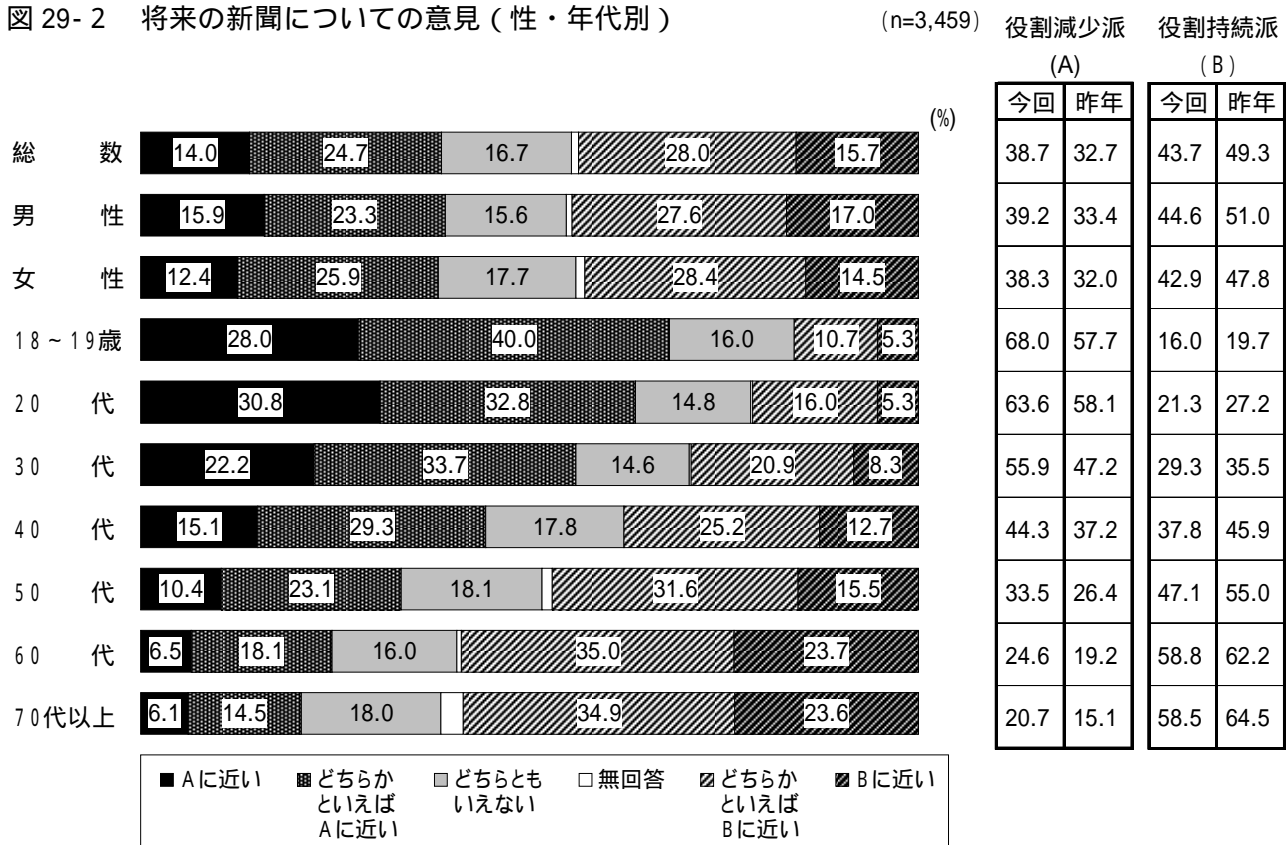


図 29-2 将来の新聞についての意見（性・年代別）

(n=3,459)



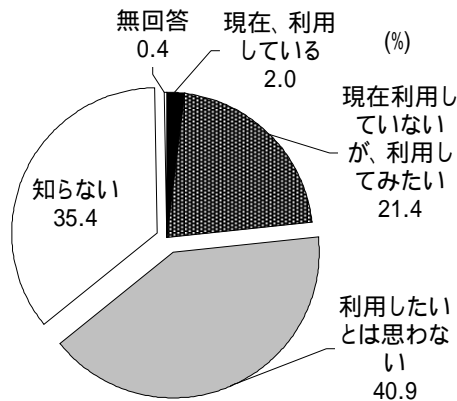
30 . 電子新聞の利用意向と魅力は？（*）

- 「利用してみたい」21%、「知らない」は昨年度より26ポイント減。

魅力は1位「過去記事の検索」、2位「重要なニュースが随時更新」 -

- ・電子新聞について、「現在、利用している」が2%、「現在利用していないが、利用してみたい」が21.4%となっており、5人に1人が利用してみたいと回答している。昨年度調査では「知らない」回答が60.8%であったが今年度調査では35.4%に減少し、認知度も大幅に向上した。
- ・電子新聞の魅力としては「過去記事の検索ができる」が47.1%で最も多くあげられている。次いで「重要なニュースが随時更新されて配信される」が39.8%、「読みたいテーマをあらかじめ指定できる」が28.4%となっている。
- ・電子新聞の利用意向を年代別に見ると、40代以下で利用意向が高く、40代の29.6%、20代の29.4%、18～19歳の36.0%が「利用してみたい」と回答している。

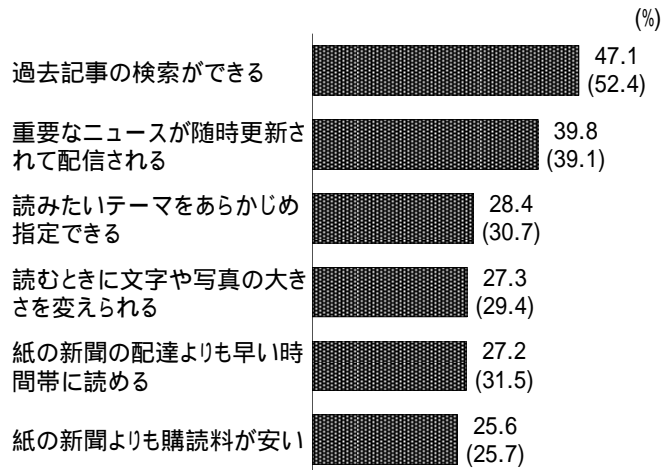
図 30- 1 電子新聞の認知度と利用意向 (n=3,459)



参考：【昨年度調査結果】

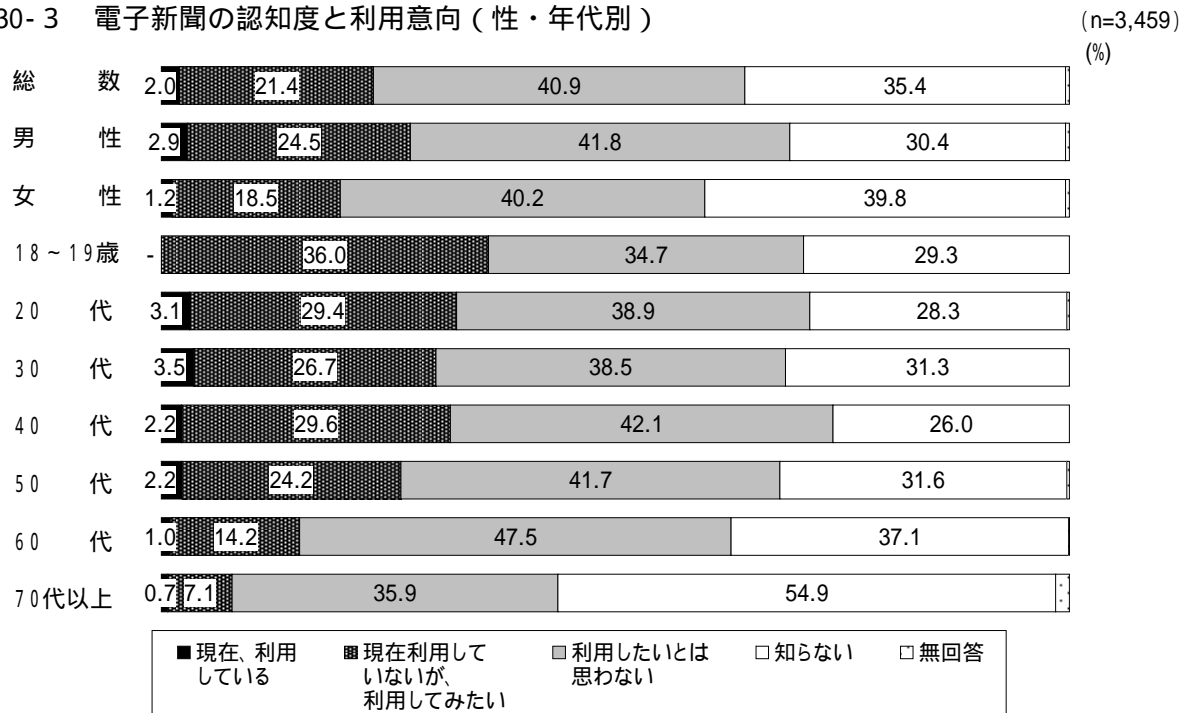
「知っているし、利用してみたい」6.6
 「知っているが、利用したいとは思わない」32.3
 「知らない」60.8 「無回答」0.3

図 30- 2 電子新聞の魅力 (n=3,459)



注：()内は昨年度調査の数値

図 30- 3 電子新聞の認知度と利用意向（性・年代別）



調査の概要

調査地域

全国

調査対象

18歳以上男女個人（5,000人）

サンプリング法

住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

回収サンプルの構成

回収数 3,459（69.2%）

調査方法

専門調査員による訪問留置法

実査時期

2010年9月

調査委託機関

社団法人 中央調査社

<性別>

総数	男性	女性
3,459	1,634	1,825
100.0%	47.2%	52.8%

<年代別>

18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
75	357	540	584	624	674	605
2.2%	10.3%	15.6%	16.9%	18.0%	19.5%	17.5%

第3回 メディアに関する全国世論調査（2010年）

2011年1月発行

発行 公益財団法人 新聞通信調査会

東京都港区虎ノ門1丁目5番16号

電話 03-3593-1081